



報 会 窓 同 工 會

2010

校 歌

嶺は秀づる磐梯山
 水は湛うる猪苗代
 これぞ乾坤秀霊の
 精氣鍾り成る処

明治三十七春なかば
 礎堅くきずかれて
 星霜ここに幾かえり
 平和の覇者を育みぬ

身には白虎の粹を享け
 鶴を徽章に雄々しくも
 至誠勤勞一すじに
 進む健児の意気高し

峙つ嶺は嶮しくも
 寄せ来る浪は高くとも
 これ奮闘の活舞台
 これぞ我等の天地なる

作詞 吉田智 山村彌久馬
 作曲 新潟師範学校

同窓会会員の皆様、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。これひとえに皆様のご支援並びに役員皆様の努力のため日本にも賞金カット、リストラ、少子化・高齢化社会の加速、地球環境の温暖化問題など深刻化しております。多くの人々民族間で紛争が絶えず、世界平和の危機的状況は脱していません。そして信じられない事件の多発、このように我々の身の回りに大きな不安ばかりが渦巻いているようです。人々は今希望を失いかけていないでしょうか。今こそ我々が夢と明るい未来を築いていきたいと思います。いや築かなければなりません。

我が同窓会を副会長、幹事長、幹事、監事、参与、吉田顧問と各位の力添えがあればこそ同窓会運営が出来ることと確信しております。

早いもので平成二十四年は創立百十周年を迎えます。記念事業の件として準備委員会を立ち上げなければなりません。準備委員会を学校側と打ち合わせの後作りたいと思います。その中で準備委員会を決定し、内容を検討して皆様にお知らせします。その時に御協力と御賛同をお願いします。

同窓会報告事項としては、二月二十六日入会式において同窓会新入会員二百七十六名入会、同日同窓会賞を授与しました。今後は五科（建築インテリア科・セラミック化学科・機械科・電気科・情報技術科）計六クラス二百四十名となります。年間の総会、方部別、東京、近畿、東海、福島、郡山、猪苗代、坂



『母校発展の新しい道』

同窓会会長 手代木利夫
 （昭28年建築科卒）

下、会津美里、科別に建友会、電友会、セラ友会、機友会、美修会、職場別として日立会工会、本部同窓会、若松会工会、に出席しました。特に東京会工会創立百年を記念して、母校へ桜の木六十二本を植樹し四月に記念式典を行い、地元「いづみや」にて懇親会を開催した。又今後松江財団についても検討していかなければなりません。

学校の行事では、卒業式・入学式に祝辞を述べてまいりました。松江財団の運営委員会、鶴翔会館運営委員会、会工高評議員会に出席しております。今迄に平成十七年から十九年には文部科学省の指定事業でスーパー専門校「目指せスペシャリスト事業」で窯変天目茶碗の製作、十九年から二十一年では経済産業省、文部科学省の指定を受けて会津ものづくり人材育成事業として地域企業、自治体、学校が連携した会津版「デュアルシステム」の研究の実績を残し「L型ドライバー」「照明付ドライバー」開発をしました。今年で各助成がなくなり、今後は学校、PTA、同窓会で考えていかなければならない問題があります。学校において学業向上、スポーツ、生徒会、野外活動に対してPTAと協力し応援してまいります。最後に毎年発行しております同窓会会報に対しての御協力と、総会を十月十六日に開催しますので、御参加を重ねてお願い申し上げます。

今後は、苦しい予算内で出来ることより実行してまいります。今後の同窓会活動に諸兄の御指導ご協力を賜りながら、母校発展のために尽力する所存でありますので、一層の御協力の程重ねてお願い申し上げます。

同窓会総会



定例総会 平成21年10月17日

関連記事

同窓会事業報告(2009.10~2010.9)

- ▶平成21年
 - 10月 6日 会計監査
 - 10月 9日 第1回役員会
 - 10月11日 会津美里会工総会
 - 10月17日 会工同窓会総会
 - 10月24日 日立会工総会
 - 10月30日 電友会総会
 - 11月 5日 猪苗代会工総会
- ▶平成22年
 - 1月16日 第2回役員会
 - 1月16日 新年会
 - 2月26日 第3回役員会
 - 2月26日 同窓会入会式
 - 3月 1日 卒業式
 - 3月 1日 卒業祝賀会
 - 3月13日 建友会総会
 - 3月19日 三役会
 - 3月20日 福島会工総会
 - 4月 2日 会工職員クラブ歓迎会
 - 4月 8日 会工入学式
 - 4月 8日 第4回役員会
 - 4月 9日 第1回会報編集委員会
 - 4月14日 創立記念講話と懇親会(須佐勝明氏)
 - 4月24日 東京会工100周年母校校樹植樹記念式典
 - 5月11日 三役会
 - 5月15日 郡山会工
 - 5月20日 第2回会報編集委員会
 - 6月 6日 東海会工
 - 6月11日 三役会
 - 6月19日 東京会工
 - 6月20日 近畿会工
 - 6月24日 第3回会報編集委員会
 - 6月26日 会工美修会総会
 - 7月 1日 三役会・第4回会報編集委員会
 - 7月 3日 機友会総会
 - 7月17日 セラ友会総会
 - 7月29日 第5回会報編集委員会
 - 8月20日 第6回会報編集委員会
 - 8月26日 三役会
 - 8月30日 第7回会報編集委員会
 - 9月 7日 第8回会報編集委員会
 - 9月15日 同窓会会報2010発行

総会・懇親会

平成21年10月17日
いづみやにて



地域に根ざした学校をめざして

校長 羽一生 幸雄

本年四月より前渡邊秀雄校長の後を受けて就任いたしました羽一生幸雄です。同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しご理解を頂き、さらには、陰に陽に、物心両面にわたりご支援をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。

赴任に際し、前渡邊校長、手代木同窓会長はじめ多くの方々に百八年の伝統ある本校教育のこれまでの歴史、取り組んできた事業の成果や課題等、多くのことを伺いました。赴任してからまだ数ヶ月ではありますが、東京会工設立百周年校樹植樹記念式典を皮切りに、多くの方部別会工、科別会工にお招きいただき、出席の機会を得た中で、同窓生の皆様方の会津工業高校への思いや誇り、熱い母校愛を強く感じることができました。

さらには、この数年、前々任の熊田校長、そして前任の渡邊校長を先頭に、教職員が地道に取り組んできた「窯変天目茶碗」の研究開発によるスペシャリストの育成、「会津ものづくり人材育成」の実践教育による地元を支える人材の育成と、これら二つの事業は、学校の活性化に大いに役立っていると同感しております。また、この事業には、地域内の企業・行政・学校が一体となったANF(あいづ・ネットワーク・ホームネットワーク)の絶大な支援があったからと聞いております。

いまだながら、本校の学校運営の責任の重さを痛感いたしました。今後は本校生徒・保護者はじめ同窓生の皆様方の思いをしっかりと受け止め、関係者の皆様方のご支援を戴きながら、微力ではありますが会工の学校運営に努めて参る所存であります。

さて、本校は、平成二十一年度末で、セラミック科と化学工学科の最後の卒業生を送り、本年度、平成二十二年度からは、全学年が建築インテリア、セラミック化学、電気、情報技術の四学科がそれぞれ一学級、機械科が二学級の計五学科六学級として、全学年が同じ学科学級数の総学級数十八クラスとなり、四月より二百三十九名の新入生を迎え、

生徒総数七百十三名、教職員八十九名の新しい体制で、新たな目標に向け出発しました。この出発にあたって生徒達には、生徒の自分である学習はもとより部活動、資格取得等の特別活動全般を含め、それぞれが日々の学校生活の中でしっかりと目標を持って、常に、チャレンジ精神を持ちながら、会工生に求められている文武両道の精神を忘れず、至誠勤労一筋に努力精進して高校生活を送ってほしいと訴えました。

また、平成二十二年度本校学校経営・運営ビジョンでは、これまで以上に「ものづくり教育」を推進し、会津工業高校の存在を地域に発信しながら、生徒一人一人の「生きる力」の育成を図っていくことを謳いました。この中では「社会に貢献できる人材の育成」をメインテーマに掲げ、「学習意欲の育成」、「職業観の育成」、「社会性の育成」の3つの育成目標と、他に、「地域との連携推進」の目標を両輪にして、それぞれの目標達成のために必要な具体的な手立てを本校教育課程に位置づけ、教育実践を行っていくことを提示いたしました。このビジョンの眼目は、会津工業高校が地域に根ざした信頼される学校として、地域社会を担っていく人材の育成を図り、かつ生きていくうえで最も大切な心豊かで逞しい人間の育成を目指すことでもあります。

これまで、会津工業高校は変化の激しい時代の中にあっても、常に県内工業高校の機関校として方向性を見失うことなく教育を行って参りました。今後は、百年を越える歴史の中で培ってきた不易な教養も併せ持ちながらこれまで以上に地域に根ざした学校をめざし、時代のニーズに応えられる工業高校として教育を行ってまいります。

むすびに、同窓会の皆様には、本校発展のためなお一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。会工同窓会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念し、ご挨拶と致します。

本部会工同窓会総会の開催についての御案内

拝啓 会員の皆様におかれましては、ますます清祥のこととお喜び申し上げます。さてこのたび、下記により本部会工同窓会総会を開催いたしますので、御多用のところ恐縮に存じますが、同窓諸氏をお誘いあわせのうえ、御出席くださいますようご案内申し上げます。

敬 具

- 1 日 時 平成22年10月16日(土)
 - (1)本部会工同窓会総会 午後4時
 - (2)講演会 午後5時「会津ものづくり人材育成事業報告について」 講師：石崎 晃
 - (3)懇親会 午後6時
- 2 場 所 ホテルいづみや 会津若松市南千石町6-35御薬園前 TEL0242-27-5538
- 3 懇親会費 5,000円(新卒者は2,000円)
 - ※出席のご返信を10月4日(月)までお願いできれば幸いです。
 - 尚、参加の申し込みは、会津工業高校 事務局 中丸までご連絡下さい TEL 0242-27-7456

若松会工の開催について
平成22年10月16日(土) 午後3時より 場所：ホテルいづみや

平成21年度 福島県立会津工業高等学校同窓会収入支出決算書
(自平成20年10月1日～平成21年9月30日現在)

収入総額 4,042,533円
支出総額 3,476,217円
差引残額 566,316円

(単位：円)				
◎収入の部				
費目	予算額 (A)	決算額 (B)	(B)-(A) 増減	摘要
繰越金	913,516	913,516	0	前年度の繰越金
入会金	2,400,000	2,400,000	0	新入生 (240名×10、000円)
協力金	650,000	673,346	23,346	会報2008協力金 (758名分) サラト献費 (86,614円) 名譽金
雑収入	36,484	55,671	19,187	寄付金、他
合計	4,000,000	4,042,533	42,533	

(単位：円)				
◎支出の部				
費目	予算額 (A)	決算額 (B)	(B)-(A) 増減	摘要
総会費	250,000	188,000	-62,000	総会関係経費
会議費	600,000	456,145	-143,855	各支部総会時の謝祝儀、役員会
旅費	500,000	393,779	-106,221	各支部総会時の旅費
卒業記念費	150,000	162,000	12,000	(校歌、応援歌、会工賛歌) CD代
事業費	950,000	736,309	-213,691	広告代、各支部、松江英学会助成
体育文化振興会助成	100,000	100,000	0	体育文化振興会助成
ものづくり人財育成支援	100,000	100,000	0	セミコンジャパン出展への支援
慶弔費	50,000	45,600	-4,400	香典、弔電、花環代
消耗品費	40,000	18,291	-21,709	フィルム、プリント代、事務用品
印刷費	800,000	784,875	-15,125	会報印刷代 (7000部)
通信費	200,000	130,060	-69,940	切手代、電話代
事務費	160,000	361,158	201,158	コピー機リース料(20,21年度分)
基金・積立	0	0	0	
予備費	100,000	0	-100,000	
合計	4,000,000	3,476,217	-523,783	

※ 収入総額 4,042,533 円－支出総額 3,476,217 円＝差引残額 566,316 円は
次年度に繰越し致します。

監査結果報告について

平成21年10月6日歳入簿・歳出簿・現金出納簿・預金通帳・および支出調書等関係書類を調査照合の結果、適正に執行されている事を認めましたので報告します。

平成21年10月17日

監事 手代木 徳夫

監事 坂内 茂男

監事 間場 一宏

平成22年度 福島県立会津工業高等学校同窓会収入支出予算書 (案)
(自平成21年10月1日～至平成22年9月30日)

収入総額 3,700,000円
支出総額 3,700,000円
差引残額 0円

(単位：円)				
◎収入の部				
費目	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	(A)-(B) 増減	摘要
繰越金	566,316	913,516	-347,200	前年度の繰越金
入会金	2,400,000	2,400,000	0	新入生 (240名×10、000円)
協力金	700,000	650,000	50,000	会報2009の協力金
雑収入	33,684	36,484	-2,800	
合計	3,700,000	4,000,000	-300,000	

(単位：円)				
◎支出の部				
費目	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	(A)-(B) 増減	摘要
総会費	200,000	250,000	-50,000	総会関係経費
会議費	500,000	600,000	-100,000	各支部総会時の謝祝儀、役員会
旅費	450,000	500,000	-50,000	各支部総会時の旅費
卒業記念費	150,000	150,000	0	(校歌、応援歌、会工賛歌) CD代
事業費	850,000	950,000	-100,000	広告代、各支部、松江英学会助成
体育文化振興会助成	100,000	100,000	0	体育文化振興会助成
ものづくり人財育成支援	0	100,000	-100,000	
会工祭助成	100,000	0	100,000	会工祭への助成
慶弔費	50,000	50,000	0	香典、弔電、花環代
消耗品費	40,000	40,000	0	フィルム、プリント代、事務用品
印刷費	800,000	800,000	0	会報印刷代 (7000部)
通信費	200,000	200,000	0	切手代、電話代
事務費	160,000	160,000	0	コピー機リース料、他
基金・積立	0	0	0	
予備費	100,000	100,000	0	
合計	3,700,000	4,000,000	-300,000	

付帯決議 科目間の流用については会長に一任する。

各支部への助成 東京－10万・近畿－5万・東海－5万・若松－5万・福島－3万
郡山－3万・猪苗代－3万・坂下－3万・西会津－2万・湯川－2万・会津美里－2万
津友会－2万・電友会－2万・機友会－2万・セウ友会－2万・美修会－2万

(会工100年史補完版2)

直後、活動停止の会工同窓会まで。初代から6代までの同窓会々々長(校長)と当時の活動について

前号で戦後の3人の同窓会長を報告したところ2本の電話をいただいた。「ところで戦前の同窓会長はどんな方か」という質問であった。

分かったつもりでいながら意外に昭和20年第2次世界大戦終戦までの同窓会長を努められ、本校校長として敏腕を振るわれた大先輩たちの事跡が記録されていない。本校校長室隣の応接室には25代までの校長のお名前と肖像写真が掲額されているが、どういう人であったのか。学校にも確たる資料がないように思われる。「会工100年史」でも編纂委員のどなたもそこに踏み

込んだ記憶はないのではないかと。百年余りにわたる同窓会史の流れをつかんでいただくため、今回も「会工同窓会史の概略」を入れたが、原稿の段階で本校学校職員から「福工同窓会ってなんですか」と聞かれてしまった。明治・大正・昭和の初めごろまで本校は福島県で唯一の工業学校であったために「県工」「福工」「福工」あるいは単に「工校」と呼称されている。ちなみに福島県で2番目に出来た工業学校は昭和3年に至り川俣染織学校が県立川俣工業学校(現県立川俣高等学校)となり、本校は翌4年に文部省告示で校名に「会津」の地名を入れたものである。

福島県立工業学校であったため正式な略称は「福工」であり、ゆえに同窓会名も「福工同窓会」である。4代会長井口氏が転勤した兵庫県立工業学校が兵庫県で唯一の工業学校であったために当時「県工」「兵工」と愛称されたのと同じである。100年以上、一番近いところでも65年もの昔を知るのは難しいものである。会工同窓会が昭和16年10月に発行した「会工35年史」および同年12月発行の「会報17号」を中心に学校資料、市町村史、新聞、ホームページの記録からたどってみた。

いつものことながら資料収集にお力添えいただいた会津図書館職員の皆様には心よりの感謝を申し上げます。

会工同窓会史の概略

0、同窓生の誕生(明治28～39年)
明治28(1895)年7月 大沼郡本郷村村立窯業徒弟学校設立(満年齢12才以上修業年限2年)2年後には卒業生を出した。

明治31・4

明治35・9

明治36・10・27

明治37・4・15

1、福工同窓会の創立期(明治40～大正9年)

明治40(1907)年3月25日 第3回卒業式、県立工業学校第1回入学生の卒業にあわせて、福工同窓会創立総会。旧本郷村立窯業徒弟学校、旧若松市立会津漆器徒弟学校卒業生も会員とする10条からなる会則を制定し、初代会長に下山又次郎校長、副会長島居準太郎先生。以後校長が同窓会長となる。
大正6・1 2代会長金子篤寿校長、6月から副会長永井二郎先生となる。

2、学校支援の福工同窓会、体制確立(大正10～昭和6年)

大正14(1925)年6月 3代会長正木遊方校長、副会長常木新蔵先生昭和5年まで。初の同窓会報1号を発行した、名簿主体のものである。終身会員制度を設ける。

3、学科増設、学校づくりの会工同窓会(昭和6～16年)

昭和6(1931)年7月 4代会長井口直次郎校長、副会長常木新蔵先生、渡部先生、日野晴日子氏となる。同窓会費の在学中積み立て制度を実現する。
昭和13・1 5代会長高橋清章校長、副会長に北村丘先生、河野幸男先生、大村九十九氏、理事長に佐藤伝十先生とある。

4、戦時中戦争直後、活動停止の会工同窓会(昭和17～21年)

昭和18(1943)年5月31日 6代会長河野幸男校長となるが、同窓会機能はほぼ停止していた。

5、戦後の混乱期を立ち上げる新生会工同窓会(昭和22～28年)

昭和22(1947)年7月13日 7代会長中川源三郎氏、副会長秋山寛二氏、佐藤伝十氏これより役員は同窓生の中から公選となる。

昭和23・4・25

昭和24・12・11

昭和29・10・10

6、全国に飛躍の会工同窓会体制確立(昭和29～54年)

昭和29(1954)年5月22日 10代として新理事長に吉川省氏。
昭和29・10・10 11代理事会議長に佐藤勝次氏選出、総会開催地を全国の各地区持ち回りとした。
昭和33・5・25 12代として理事会議長に新田義一氏を選任。
昭和49・11 13代会長吉川省氏となる。
昭和51・12 14代会長佐藤勝次氏となる。

7、会工同窓会本拠地に定着(昭和55～平成14年)

昭和55(1980)年4月22日 15代会長吉田一栄氏選任される。
8、さらなる進展を目指しての会工同窓会(平成15～現在)
平成15(2003)年10月 16代会長に梅津正夫氏を選任する。
平成20・10 17代会長に手代木利夫氏を選任し、今に至っている。

0、同窓生の誕生

1、福工同窓会の・創立期(明治35～大正9年)

初代 下山又次郎氏について
福工同窓会長としては明治40年4月～大正5年9月まで10年間を務められたが、校長としては明治36年10月から13年間にわたり勤務されている。
群馬県出身 東京高等工業学校蔵前工業) 染工科の出身 明

治36年（1903）9月の福島県議会で福島県立工業学校設立認可が議決されて、若松市や財界諸氏の永年の工業学校設立がよくスタートの緒についた。下山氏は宮城県染織試験場技師、宮城県工業巡回教師より本校校長に就任し若松市横三日町に住まいされた。本郷窯業・若松漆器両徒弟学校の校長築瀬真寿氏と鳥居準太郎氏と共に開校に向け・会津中学校（現・追手町会津若松市中央公民館）に仮事務所を置き、開校にむけて尽力された。実習設備を設置するのに日露戦役の直前で物資不足など幾多の困難があったことが記録されている。

各科定員20名に入学志願者染織科は119名、漆工科58名、窯業科25名の応募があり、大変な競争率の中を勝ち抜いた入学生58名と本郷窯業徒弟学校から12名、若松漆器徒弟学校から22名の編入生と合わせて総計92名の生徒で「明治三十七春なかば礎堅くきずかれて・・・（校歌）」に開校となった。以下、学校運営の状況は「会工100年史」第2章創立の時・明治後期26く45ページを参照されたい。明治40年（1907）3月25日、第1回入学生である染織科の12名、漆工科8名、窯業科7名の卒業（「会津日報」明治40年3月28日付によると卒業生は入学者の半数ほどであった）に合わせて「福工同窓会」が設立され、本郷窯業・若松漆器両徒弟学校の卒業生も会員とした。このときの「福島県立工業学校同窓会規則」は10カ条からなる。

- 第1条 本会ハ福島県立工業学校同窓会ト称シ会員相互ニ親睦ヲ厚クシ知識ヲ交換シ協力力斯業ノ発達進歩ヲ期スルオ以テ目的トス
- 第2条 本会事務所ヲ福島県立工業学校内ニ置ク
- 第3条 本会ハ左ノ会員ヲ以テ組織ス
 - 1、福島県立工業学校卒業生
 - 2、旧会津漆器徒弟学校卒業生
 - 3、旧本郷町窯業徒弟学校卒業生
- 第4条 本会ハ名望学識アル人及ビ福島県立工業学校職員ヲ推薦シ客員トス
- 第5条 本会役員
 - 1、会長1名、会長ハ福島県立工業学校校長ヲ推薦シ本会一切ノ事務ヲ処理ス
 - 2、副会長一名、客員中ヨリ推薦シ会長ヲ補佐ス
 - 3、評議員3名客員中ヨリ之レヲ推薦ス
 - 4、幹事若干名客員中ヨリ互選シ会務ヲ掌ル
- 第6条 役員ノ任期ハ1年トシ毎年総会（3月）ニ於イテ改選ス但シ再選スル事ヲ得
- 第7条 集会ハ総会及ビ染織、漆工、窯業ノ3部会トス 総会ハ毎年3月之ヲ開キ部会ハ臨時之レヲ開クモノトス
- 第8条 毎年2回会報ヲ印刷シ会員ニ分ツ
- 第9条 会員ハ入会金50銭 会費40銭（年額）ヲ納ムルモノトス

を選んでいる。会報5号（137ページ）を発行、記念式寄付金を募集し435円50銭を集めて式典や母校校友会にスキー部新設基金100円を寄付した。

まだ全体として振るわぬ同窓会活動の規約改正を進めて学校の現旧職員を特別会員、名誉会員の制度を設けた。さらに支部増設強化、会費徴収・終身会員制度を設けるなどしながら同窓会基本金の確立をはかりこの年6100円を達成した。昭和4、5年経済不況で会員の失職、就職難などがあり同窓会による就職斡旋をはかった事もあった。同窓会役員にのちに同窓会会長を務める中川源三郎氏、秋山寛二氏や星三郎氏など若手を登用したのもこの時期である。

校長であるとともに福島県商工技師も兼務し、正六位。織物同業組合や陶磁器同業組合との共同、さらに本校敷地内に福島県漆器工芸研究所を立ち上げるなど産業界の指導にも名を残した。昭和6年山口県立下松工業学校2代目の校長として転任発令、以後6年間勤めておられる。12年には朝鮮に渡り「朝鮮人絹染色工業組合連合会」の官選理事に就任し大量の人絹織物の輸出検査、統制配給事業にかかわり取扱量は年間200万反、1600万円にのぼることが35年史に記載されている。

韓国のホームページ「日本植民地時代の組合」データに同組合連合会の代表者高井兵三郎氏（滋賀県酒造家の出、伊藤忠商事「共益社」駐在員。鉄腕アトム主題歌作曲の高井達雄氏の父）と共に正木游方氏（一字違っているが）の名が記録されている。朝鮮国京城府古市町18に住まわれた。

3、学科増設・学校づくりの会工同窓会（昭和6く16年） 4代 井口直次郎氏について

京都府の出身。姫路高等学校からドイツに留学し帰朝早々に恩師山川健次郎、新城新蔵両先生の郷里会津からの招聘で本校校長に就任されたが、当時83歳の母上も会津への赴任を喜ばれたとか。両恩師といわれることから京都帝国大学のご出身かと思われる。座右の銘は「以和為貴」である。

昭和6年6月く12年11月まで6年間の同窓会を支えられた。同窓会の基礎となる会費の徴収も容易でなかったため、終身会費を在学中の積み立て制度とした。このときの同窓会基本金は690円になった。母校30周年記念事業として奉安殿建設を同窓会総会で満場一致で可決。10年（1935）7月に竣工した。本校応用化学科科长であった永井年朗先生の徳をしのび「永井奨学会」を設立しレリーフ銅像を作成し講堂に掲げたところがあるが所在は不明である。窯業科教員の坂内文三郎（日本画家文石）先生の頌徳碑は校庭入り口に建立、これらは同窓会員の絶大な援助で達成している。また井口会長の時代から校地（グラウンド）拡張、電気科増設運動が開始されている。

福島県商工技師として漆器素地ベークライト、色漆、木綿織物ホームスパンの研究など会津工業試験場の充実を図り、試験

第10条 本会規則修正セントスル時ハ総会ノ決議ニ依リテ之ヲ行ウモノトス

本校初の同窓会役員は次の通りである。

会 長	下山又次郎（校長）
副 会 長	鳥居準太郎（教頭）
染織部々長	高橋喜一（染織科長）
漆工部々長	児島 明（漆工科長）
窯業部々長	不明
染織科側幹事	国分久太郎 佐藤新三郎
漆工科側幹事	不明
窯業科側幹事	不明

注…6名の役員が判明しているが、幹事以外の役職は全て学校教員が分担している。

幹事である国分久太郎、佐藤新三郎の両氏はともに明治40年3月染織科の第1回卒業生である。染織科の入学志願者は県内外からの応募者119名、合格者は20名、3年後の卒業者は12名、同窓生にして初の同窓会役員にこのうち二人が選ばれた超エリートであった。国分氏は本校卒業後に若松市内鳥橋（現御旗町）にて絹糸のより糸工場を経営された。ご子息俊一氏の奥様トシ子さんのお話によると、近隣に染め工場もあり鳥橋下の湯川で製作品を水洗い仕上げとされたという。絹糸の販売を手がけられ「糸の国分」といわれ今も看板が残っている。

佐藤氏はのちに早稲田大学理工学部を卒業し、東京丸の内海上ビルディングに佐東合名会社を経営し、昭和16年の記録では同窓会東京支部の役員も勤めておられた。昭和28年設立の若松会工会初代会長でもあった。

当初、校友会と一体で総会を開催、卒業生名簿なども出されていた。大正3年には「福工誌」第1号誌が出され卒業生の一部に頒布されるなどしているが同窓生は弱年であり若松市を中心とした活動であった。地方組織としては4年後の44年9月10日には東京で「東京福工会」が作られている。

下山会長は大正5年9月1日奈良県立工業学校（現奈良県立御所実業高等学校）に転勤されてこども校長を勤められ、奈良県南葛飾郡御所町に居住された。正五位勲六等。晩年はご子息元治氏のもとに東京市小石川区白山御殿町118にお住まいされた。

2代 金子篤壽（嘉延）氏について

東京帝国大学工学科応用化学科出身 工学士 座右の銘「迷信を打破すべし」。京都市染織学校校長（現京都市立洛陽工業高等学校）より転入 従六位勲六等。四級俸（1500円）工学士にて甲種工業学校長は全国で唯一人である。応用化学科、さらに地域の要望から醸造部を設置し運営に尽力された。地場産業

場長も兼務しながら窯業分場の増設にも尽力された。会津漆器の漆工競技会などにもかわかり、この頃の筆者（江花）の父親が頂いた第14回漆工競技会の一等賞の賞状には本校設立に尽力された若松市長、従四位勲四等 佐瀬剛、氏とともに、審査長、正五位勲六等 井口直次郎、の名が残されている。

昭和12年に兵庫県立工業学校の県立第一神戸工業学校（現兵庫県立兵庫工業高等学校）に転任し、兵庫県神戸市兵庫区大開通8丁目に住まいされた。19年には兵庫県姫路市に県立高等工業学校（現在の兵庫県立大学）の設立に尽力し初代学長として4年間務められた。

5代 高橋清章氏について

山形県米沢市出身。大正4年3月東北帝国大学（仙台高等工業）工学専門部卒業 新潟県立長岡工業学校一カ年の勤務のち東北帝大の助教、仙台高等工業助教として教授、13年11月34歳で岩手県立工業学校長・昭和7年8月からの宮城県立工業学校長をへて、13年1月には48歳にして会津工業学校長となる。同年3月には会津工業試験場長を兼務した。従五位勲六等。座右の銘は「水到渠成」である。

昭和13年1月く18年6月の5年間を同窓会長（校長）として支えられた。「会工100年史」第5章2節に詳しいが、同窓会は戦前最高の働きを見せている。

多年の宿願であった機械科（電気科）設置、グラウンド拡張設置運動が高橋会長が引き継ぎ、副会長で若松市会議員でも在った日野氏が福島県や若松市と議会、マスコミに持ち込み、同窓会が総力を挙げ一大運動を展開したことにより、松江春次氏の33万円、鈴木善九郎氏の2.6万円の寄贈といった義挙を生み出した経緯は当時の新聞に詳しく、皆様をご存知の通りである。

こういった中で本校創立35周年記念式にむかうが、若松市の寄附、福島県、文部省の補助、同窓会、父兄後援会、本郷陶磁器、若松酒造、会津綿織物、会津漆器工業、同商業など各同業組合からの支援も相次いだ。同窓会の定期総会では満場一致で支援助議をし、同窓生も青壮年の活躍期となり全国に458名の実行委員を委嘱して広く一般会員から記念資金の募集をした。昭和16年（1941）11月23日 本校創立35周年、機械科増設竣工、松江記念館・松江氏胸像竣工の式典が挙行され、機械科各工場と設備、講堂、雨天体操場、松江記念館など総坪数1356坪にも上る増改築がなされた。

同窓会の母校創立35周年記念事業として、松江、鈴木両氏の相田直彦画伯による油絵肖像画、祝賀会協賛、物故会員の慰霊祭と忠霊の写真額、発明展覧会、松江工業博物館補助、功労者・勤続職員表彰、記念講演会、教練銃整備助、26004円記念精神修練道場建設など多彩にわたった。総経費2万4240円であったが、さらに生徒の定員増加（機械科50名、応用化学科15名増の45名、漆工・窯業両科共に10名増の各25名）に伴

を背景とした徒弟学校から発展させた本校も、本格的な工業学校として旺盛への道をスタートさせた。当時の校長の授業は修身教科を受け持つのみであったようであったが、応用化学科の増設にもかかわらず、化学系の教員を得ることが困難で校長自身が化学の講義実習八時間と修身、代数、幾何の授業も受け持たれた。

同窓会長としては大正5年（1916）9月から14年6月まで9年間務められたが、大正8年11月に母校創立15周年記念式典と醸造部披露式、製作品展覧会と若松漆器、会津木綿連合物産品評会を開催した。この時同窓会は「創立15周年記念帳」（三六版40ページ）を発刊。11年には「福工校旗」調製に同窓会から二十五円を寄付した。この頃の同窓会役員のうち評議員11名中6名、常任幹事4名の同窓生が務めて同窓生の役員が少しずつ増えてきている。12年「福工誌」第7号に寄せられた寄附金残額を初めて同窓会基本金とした。三十円であった。東大出身の校長先生が生徒募集に小学校・村役場や地域の有力者を訪ねて雪中行軍をされたとの記録がある。生徒の就職活動には東京、京都、大阪に職員も派遣した。大正14年6月に依願退職されてから、京都市上京区小山坡倉町28（旧二条通り千本西入三筋目上ル）に居住された。昭和4年に何らかの理由で「嘉延」と改名されたが在職中は篤寿氏である。

2、学校支援の福工同窓会、体制確立（大正10く昭和6年） 3代 正木遊方氏について

出身地、出身校がいまのところ見つからない。朝鮮総督府京城高等工業学校教授の経歴をへて本校校長になり、若松市南横町30に居住された。座右の銘は「工業報国」である。

この頃入学志願者が少ないことに東奔西走されたが「会工100年史」第3章66ページにあるように「生徒製作品展覧会」の在り様を教育機関として一石を投じ、同展、今の「会工祭」を中止して「校長の独断だ」と新聞で非難されたりもするが、これに替わって昭和2年からは「一市五郡小学児童図案手工品競技会」を開き・東京・京都・名古屋・大阪・奈良の小学校の生徒作品や東京美術学校、京都工芸学校の優秀作品を展示し全国水準にレベルアップがはかられている。10年からは「全県下小学児童図案手工品競技会」と全県下を対象を広げ、さらに小学校教員を対象に「手工・図案」講習会を立ち上げ実技講習を通じて・デザインやものづくりの重要性と工業教育の理解を広める体制を作り、入学志願者の増大につとめられた。どんな経歴と人脈をお持ちの方だったのだろうか。大正14年6月く昭和6年5月まで6年間が同窓会長（校長）である。昭和4年（1929）10月には本校創立25周年記念式典と4年ぶりの製作品展覧会を開催した。この時同窓会は記念事業実行委員長に日野晴日子氏（第一回漆工科入学生で卒業はしていないが、のちに弁護士、同窓会の名誉会員で8年からは同窓会副会長に推奨）

なう教室建築費や「会工35年史」（319ページ）編纂にも力を注いだが、これが戦前の学校の様子を知る上で貴重な資料となっている。

昭和13年の同窓会基本金は2378円21銭、16年3月には3498円であった。

同窓生の増加、適齢化、社会の活況化があり会工同窓会も規約は16条にわたる大幅な改正をし、事業条項を設け、役員条項では理事長・理事（校内5名校外6名）による会務執行体制を作り上げた。

昭和15年の役員は戦前最大の33名である。

会 長	高橋 清章（校長）
副会長	河野 幸男（機械科長）
理事長	大村九十九（窯業明37入学生 特別会員）
理事（校内）	佐藤 伝十（漆工大10 教員）
二輪 龜七（応化大11 教員）	
大竹 正（応化大11 教員）	
佐々木徳蔵（染織大7 教員）	
猪瀬 喜義（漆工明43 教員）	
津田 憲二（漆工明39 教員）	
吉田 孝平（染織明45 教員）	
花摘 義夫（染織大8 教員）	
中川源三郎（応化大9 教員）	
秋山 寛二（応化大11 教員）	
近藤 好美（染織大11・教員）	
佐藤 文助（応化大9 教員）	
梅宮 貞娃（窯業大13 教員）	
監事（校内）	日野晴日子（漆工明37入学生 特別会員）
渡部 嘉造（漆工明35漆器徒弟学校卒業）	
高瀬 三郎（染織明45 教員）	
小山 元（漆工大8 教員）	
平田誠五郎（漆工明37入学生 特別会員）	
中村 近次（窯業明43 教員）	
岸 昇輔（窯業大4 教員）	
遠藤勝太郎（応化大10 教員）	
鈴木 源一（応化大11 教員）	
成田 善蔵（漆工大14 教員）	
木村 林吉（窯業昭7 教員）	
河野 幸男（機械科長）	
大塚 博（応化科長）	
土田 政男（窯業科長）	
橋本 正行（染織科長）	
城倉 可成（漆工科長）	

役員は校長や科長を除いて校内役員はすべて同窓生であり、

会津漆器徒弟学校の卒業生や卒業までは至っていない同窓生で規約上の特別会員の三名も務めている。初代理事長は佐藤伝十氏であった。

また支部規則条項などを設け広く県外にある同窓生の組織化にも務めた。当時の支部名を挙げると本郷窯業支部（支部長 岸昇輪氏）、川俣（支部長 久、京都（支部長 坂本時三氏）、東海（支部長 斎藤久造氏）、郡山（支部長 佐藤弁吉氏）、大阪（支部長 佐藤平蔵氏）、大寺日曹校友会（会長 吉田孝平氏）、東京（支部長 植村寅氏）、仙台（支部長 福西哲三氏）の各支部と、さらに会長が昭和15年7月から約一ヶ月にわたり満州を視察し、これを期に大連（支部長 澤田只士氏）、奉天（支部長 佐々木準綱氏）、鞍山（支部長 阿曾之孝氏）といった支部も出ていた。

18年6月に依願退職されて〇〇市の民間航空会社の部長に転職、若松駅より出発とある。（当時の新聞には戦時中のことで機密を守るために移動先が〇〇市としか表現されていない、その後も不明である。）

四、戦中戦争直後、活動停止の会工同窓会（昭和17〜21年）
6代 河野幸男氏について

岩手県出身 大正11年に岩手県立工業学校機械科卒業、実教出版社の「続日本工業教育史」によれば京都帝国大学卒業後、昭和14年東京の深川工業学校から本校の機械科設置に伴い科長として招かれて、新設機械科の内容充実を図り同時に教務主任も務め、若松市東名古屋町10に居住された。

文部省は18年5月31日付で校長に昇格辞令を発令した。戦時の援農、学徒通年動員、校舎の学校工場、扶桑2256部隊の兵営にもなったために学校教育以外の事柄にも取り組んだ。20年（1945）4月1日には日立製作所の支援があるということで電気通信科を増設した。8月15日には敗戦となった。授業もなし卒業式もなしで同窓会活動も皆無であるが、戦前は校長が同窓会長を兼務しているため、昭和18年7月〜23年10月の4年間を務められたことになる。

【会工100年史】正誤表

	ページ	行	誤	正
第1編沿革 (2-289)	3	8	頒布	公布
	6	10	福島県の総合	福島県の統合
	35	4	文末に挿入する	(50周年記念誌)
	37	4	大村九十九	第2回入学生(K) 大村九十九
	43	18	明治36年4月31日	明治36年10月31日
	51	21	川俣工業学校	川俣染織学校
	77	24	1項	削除
	115	7	遺憾	遺憾
	116	6	応用化学増設	応用化学科増設
	116	10	応用化学2部増設	応用化学科2部増設
	117	7	重化学工業	重化学工業
	118	7	マスターオブサイエン	マスターオブサイエンス
	139	9	各科四年制	各科4年生
	143	16	柳 津往復	柳津往復
	144	4	語りぐさにしは思い出し、、、	語りぐさにしては思い出し、、、
	145	20	工作機械にこそ異なっ、	工作機械こそ異なっ、
	158	25	昨日の称に	昨日の様に
	159	1	赤径微動ハンドル	赤径微動ハンドル
第4編諸団体 (550-597)	561	28	再会	再開
	561	29	代々木文化開館	代々木文化会館
	584	29	校舎建設、、記載文を移す	校舎建設、、記載文をS26,3,8に移す
	588	16	昭和41年不明としたが	本史出版後に判明、別途詳細
	595	15	山田岩記氏	山内岩記氏
	629	19	(月日空欄)	9月と記載する
第6編資料編 (626-809)	629	20-21	市が寄付した15、、校地となる	削除
	629	24	(3288.60坪)を下段に移動	畑実測1町9畝、、(3288.60坪)
	629	27	畑実測1町1反1畝、、(3556.63坪)	畑実測1町1反1畝、、(3746.63坪)
	629	30	総額坪数8997.415坪	総坪数8997.415坪
	632	6	卒業式	卒業式(日々)
	632	30	遠足	遠足(日々)
	633	44	3月27日	会工35年史では3月25日と記載
	636	44	第8回卒業式(若日28)	第8回卒業式(若 日28)
	659	39	本人	求人
	667	31	県高工水部課	県商工水部課
	673	11	セラレ	せられ
	677	28	松江記念館松江氏胸像除幕式典	この文言はS16, 11, 23 のものであり削除
	678	13	松江氏胸像	松江氏胸像の原型が完成 と付記
	692	47	87才	78才
	693	14	胸像除幕式玄関前にて	胸像除幕式玄関前にて を削除
	783	12	中村金三郎	中村金三郎 T
	783	19	森信五郎	森信五郎 T
	783	33	中田仙三郎	中田仙三郎 機関士
	785	9	鈴木清美	鈴木清美 柔道
	787	42	坂井四郎	坂井四郎 C
	791	34	前田大四郎	前田大四郎 社
	795	24	赤城良一 E	赤城良一 E 教頭
	796	5	大塚 修	大塚 修 K
	796	6	峯岸利夫	峯岸利夫 C
	796	10	萱崎興志雄 事	萱崎興志雄 事務長
	797	12	山崎亦一	山崎亦一 事
	808	42	金沢容子 司書 昭36ごろ	金沢容子 司書 昭36-37

江花光泰 22.2.2

若松会工会

会長 藤田晴史

(昭40電気卒)

若松会工会は、物心両面にわたり、本部同窓会に依存した運営の中で、当会の活性化に向け活動してきましたが、本部同窓会と地域と会員が重複しており、はからずも本部同窓会のサポート的認識から抜け出せていません。

このような状況の中で今年度は、大きな変化がありました。

第一に本部同窓会からの助成金が半額となり、会の運営資金が不安定化したため、会費（協力金制）を導入しました。

第二に本部同窓会の会長が当会の会長を兼務していましたが、本年度より独自の会長として私が任に当たる事となりました。しかし、会費の集まりがままならず苦慮しており、又私自身の役不足の為、独自の活動が出来ず、会員の皆様にご心配とご迷惑をおかけしている現状です。何人とか会の趣旨に添った活動の実施に向けて態勢を整えて活性化と考えます。皆々様のご支援と御協力をお願い申し上げます。

東京会工会

東京会工会百周年

桜樹記念式典を終えて

副会長 金子昌輝

(昭32建築卒)



会報発行お目出度うございます。東京会工会が進めてきました、母校桜植樹記念式典開催に際しましては、本部同窓会、学校関係者の皆様には、多大なご支援ご協力を頂きました。特に同窓会役員の若狭、小山両氏、学校での担当真田氏には、細かい配慮ご指導を頂きました。改めて、感謝申し上げます。

平成十四年に会津工業高校百周年記念が、風雅堂にて盛大に行われた事は、まだ記憶に新しい所であります。続くように東京会工会も百年を迎えます。当会ではそれを記念にしようとして、母校に桜を寄贈する事に致しました。五カ年計画を作り、当時の梅津同窓会長、熊田校長にも相談して了解を得ました。

平成十七年三月、みぞれまじりのなか、東京会工会、地元関係の方々が集まり、八角神社にて献入りの儀を執り行い、鶴翔会館に於いて直会を設け完工をお祈りしました。平成二十一年に、植え続けた桜は六十二本となり、桜の間隔などの理由もあつて中止し、ひとまず目的を達成しました。記念式典を計画し、之も当時の渡邊校長、手代木会長と相談し、寄付者の銘板設置の許可をいただきました。その時、多くの人に集まってもらえる機会になると、各地区各グループにも案内を出すことにしました。



東海会工会

会長 星 芳雄

(昭36電気卒)

H22年6月22日(日)名古屋市中区「志の島」で会員22名出席のもと総会を開催しました。

校歌斉唱で始まり、会務・会計報告があり、懇親会では手代木会長、羽二生校長等来賓の方々の祝辞を頂き、恒例の剣舞白虎隊を詩吟東京会工会副会長の五十嵐様、東海会工会副会長浅沼定様の33年卒名コンビで披露いただき盛大な総会となりました。

私の会長挨拶では、会津藩士の心構えを定めた「仕の掟」を紹介させて頂きました。内容は以下の通りです。

『これはH23年度小学6年社会科の教科書に採用される事が決まり、大手「東京書籍」が出版するものです。ご存じの方も多いと思いますが、会津の武士の子ども達は、「日新館」という藩校へ入学前の6歳から9歳までの間、近隣の子ども達が集まる「仕(じゅう)」という組織に入り、毎日午後当番の家に集まり、「うそを言うことはなかりませぬ」「弱い者をいじめてはなかりませぬ」など7箇条からなる「仕の掟」を朗唱し年長者の指導を受けながら「掟」に違反する行為は、なかったか反省し、社会のルールや人間関係を身につけていたそうです。』

現在の日本は、家庭、学校、政治等崩壊の危機にあり、又姓名尊厳が軽視され、善悪の判断があい



窓会のあゆみ」について昭和三十七年の設立総会からの活動経緯等について星会長から説明があり、その後当会の今後の取り組みについて懇談形式で話し合いを持ちました。

前段での会が終わる、本部役員の方々を含む総会の開催となしました。最初に手代木会長のご挨拶の中で、母校生徒の就職内定率百パーセントをここ数年間維持している旨の話があり、この就職難の時に「内定率百パーセント」とはさすが文武両道の会工健児だと、「胸をなでおろす」一幕がありました。

鶴雲飛翔

まいな世の中になっています。

今教科書で勉強することは、子どもにとって大変なことだと思えます。

『ならぬことは、ならぬものです』の会津魂を、いや会津工業魂をこの尾張の地で発揮し社会貢献を共にしていきたいと思えます。

都市内で開催しました。本部より手代木同窓会会長、若狭副会長、そして本校より羽二生校長先生が出席していただきまして、盛大に行いました。

ここ近年会員の出席が悪く、淋しい会となりつつありますが、四十七回続いてきた近畿会工会の灯を明かに続けるため、役員一同努力しているところです。

会津と京都とは歴史から見ても太い絆で結ばれており、私達先輩も夢と希望を抱いて関西に出てこれられ、皆さん立派に成功されておられます。

そのために近畿会工会は永遠に存続させていきたいと願っています。

京都を始め、関西にはユニークなハイテク企業が多く、就職先には事欠かない地域です。そういった地域の企業で技術を習得し、将来会津へ帰って企業家となつて欲しいと願っています。



近畿会工会

近畿会工会の近況とお願い

会長 大竹文夫

(昭31化工卒)

六月二十三日、第四十七回の近畿会工会定例総会及び懇親会を京

郡山会工会

新会長 金田 寛

(昭21機械卒)

平成十五年から二十一年までの七年間「郡山会工会」々々 荒井久「大変」苦労様でした

去る五月十七日会工高校長先生をお招きし、三松会館で総会を開



きました。新役員は次の通りです。宜しく願います。

●新役員

顧問	荒井 久	S 18 T	新任
会長	金田 寛	S 21 M	新任
副会長	安田 久夫	S 18 M	留任
副会長	渡部 節夫	S 16 K	留任
幹事長	藤沼 嘉典	S 32 T	新任
会計	佐藤 亨	S 38 C	留任
事務局長	菊井 徹哉	S 58 D	留任
事務局	津田 進	S 29 K	留任
幹事	天井 清	S 25 C	留任
幹事	泉田 和男	S 26 C	留任
幹事	斎藤 宣雄	S 32 C	留任
幹事	玉木 一彦	S 38 T	新任
幹事	渡辺 寛二	S 38 C	新任

福島会工会

事務局 神田信之

(昭31機械卒)

平成二十一年度の総会を去る三月二十日福島市内のホテルにて開催しました。

今回は遠路のところ、本部から手代木会長、渡邊学校長、真田事務局長にご出席をいただきありがとうございました。今回の開催案内は、学校創立百周年の時の同窓会会員簿から、福島市内在住者約九十名の方々に郵送し、当日は二十一名の方に出席頂きました。開催案内ハガキの返信内容ですが、昭和二十年以前の卒業の方はほとんどが体調不調での欠席でした。所要にて欠席の中で「福島地区に九十名もの同窓生がおられる事を知り喜んでおります。次回は是非出席します」との返信が数通ありました。

今年度の総会は初めて出席された方もおりまして、前段で五十分間の時間を設け「福島会工同

REPORT&MESSAGE

坂下会工会

大堀前会長に感謝

会長 五十嵐 一夫

(昭43建築卒)

坂下会工会は昨年より大堀会長から、私五十嵐一夫が会長職を引き継ぎました。会長職を引き継ぐに当たっては、大先輩が名を連ねている他の会工会、当坂下会においてまだまだ元気な先輩諸氏をさせて頂いて会長職に就くことに大変恐縮しています。ともあれ、指名を受けた以上は会の維持運営に努めます。

坂下会工会は、私がUターンした昭和54年に設立され、設立総会を弘法湯という割烹で盛大に行いました。それから30年ほどが経過しましたが、当坂下会は地域の同窓会でも牽引的存在で、会津高・若商高と3校リーグソフトボール・

猪苗代会工会

会長 菅沼 淳一

(昭36電気卒)

猪苗代会工会は平成7年1月に発会し今年度は15年の節目の年となっています。

体制的には、町内を6地区に分割し各地区にはそれぞれ連絡責任者を配置し連絡体制の確立をはかっています。

会の最大のイベントとなる総会は昨年11月5日、町内の「新生旅館」において開催された。

総会には、御来賓として手代木会長、渡部会工高校長先生他のご臨席の下、15名の会員が出席し、盛大に開催された。

議事に先立ち来賓各氏から現況・課題などについての説明を頂き、校歌斉唱の後議事に入った。

主要議題としては21年度の事業経過報告、収支報告、引き続き22年度の事業計画について質疑が行われた。

事業計画については、執行部提案の通り。

1. 本校同窓会への参加協力

2. 会員相互の親睦事業

3. 新会員の勧誘事業

について承認され、継続事業として取り組む事とした。なお当会の若年層の会員が激減しており、全員参加のもと効果的な勧誘活動を前年に引き続き展開して行く事を確認した。

引き続き懇親会に入り参加者全

会津美里会工会

庶務 荒井 誠一

(昭49建築卒)

平成21年8月30日、本校機械科の創設に多大なるご尽力を頂いた松江春次氏について造詣が深く、また同窓生でもある水野銀蔵氏をお招きして、「松江春次氏と会津工業高校」を演題として講演会を開催し、氏の偉大な業績と功績を初めて知りました。参加者は、13名でしたが、一同改めて松江春次氏に感謝すると共に、会津工業高校の発展に資することを誓ったのでした。

平成21年10月11日に第2回総会を17名の参加を得て開催しました。議事は、皆様の協力のもと、スムーズに終了しました。しかし、課題は残っています。それは、会員拡大と会費納入の促進を以下に図るかということです。

私たちは、会津美里会工会の発展と、会工生の健全な成長に期待していききたいと考えています。

質実剛健

建友会

建友会会員の活躍と話題このごろ

会長 小山源昭
(昭38建築卒)

建友会会員の最近特に明るい話題になっていること、活躍されていることをここに紹介いたします。改めて言うまでもなく、昭和十九年卒の手代木利夫さんは、本校同窓会会長として大変な責務を担っておられます。昭四十五年卒の白井武男さんは、福島県建築設計協同組合の理事長で、県内公共建設物の設計関連のまとめ役として活躍されています。一方、教育スポーツ関連では、昭三十六卒の渡部孝美さん、福島県スキー連盟の会長に今年就任されました。県内外更には、国際レベルと広がり大変な重責を担っています。最後に社会奉仕関連では、昭三十七卒の山口一男さんです。ライオンズクラブ国際協会3321D地区(福島県)のガバナーとして会員三千名の頂点に立ち、県内各地域の社会生活、青少年育成等の奉仕活動に大変忙しく尽力されています。

このような建友会会員の活躍ぶりは、いろんな会合とか宴席での明るい話題になり、建友会会員の同志として、誇りでもありますし、紹介した会員をサポートせねばと思います。

電友会

布引風力発電所を見学して

会長 西村一夫
(昭31電気卒)

電友会では、ここ数年、会員相互の親睦と健康増進などを目的に施設見学と歴史探訪を計画実行しております。

今年は、六月二十一日(月)郡山市湖南町赤津の(株)グリーンパワー布引を訪問することに致しました。

梅雨の真っ最中であり、現地は標高千メートルでガスがかかると何も見えないと言われていたため、前夜の雷雨、早朝七時から降ってきた雨に心配して中止を遂言する参加予定者もありましたが、天気予報を信じて決行することにしました。

運転を開始して三年目、年間二十万人の人が訪れると言ったことで、学術関係などを除き、一般の見学もでしたが、電気主任技術者が東京電力OBで参加予定者の数名と面識があり、特別に対応をしてくれたことに、参加者七名は赤津の事業所に向かいました。

総工費が百二十億円、平成十七年五月着工、十九年二月に運転開始、三十五、五メートルの風車のブレードは小名浜に陸揚げし、ト

レーラーで運び上げたとか、組立は五百トンクレーンを使ったなどの説明や、東京電力の猪苗代観戦に十五万ボルトでTブランチし、年間一億二千万キロワットアワの電力を賣電しているとのことと、これは三万五千世帯の年間消費電力に相当する(会津若松市の一般世帯の七十二%に相当する)等の説明を受けました。

会員からは、系統との同期の取り方とか専門的な質問も出たが、騒音やバードストライクなどの環境などについても説明がありました。渡り鳥などのルートについてないため問題はない、巡視で野鳥の死骸を見つければ冷凍保存し、監督官庁に報告する事になっているとの解答でありました。

早速布引山に向い、車を走らせると雲も晴れてきて、風車群が見



郡山布引高原風力発電所



機友会

会長 栗城和夫

(昭41機械卒)

平成二十二年の機友会総会は、七月三日(土)午後五時より会津若松市内の料亭「米熊」にて開催しました。

栗城和夫会長の挨拶の後、事業報告・計画に続き、茂木(もぎ)利幸機械科科長、羽二生(はにう)幸雄校長より、『昨今の厳しい経済状況ではあります、三年生全員の進路を内定させたい。財政も大変ですが、ものづくりへの意欲を向上させるべく教職員も創意工夫の努力をしている』と、挨拶を兼ねての現況報告がありました。また、機友会からは、『現実即した資格取得の指導や、CAD/CAM等、設備の近代化を推し進めて行くべきである』との助言がなされました。

REPORT&MESSAGE

セラ友会

設立十周年を迎えて

会長 渡部洋子
(昭32窯業卒)

セラ友会とは、本年設立十周年の年にあたり、十周年記念事業として、美術展覧会と記念祝賀会を開催する事と致しました。

美術展覧会は、鶴翔会館に先輩の作品が多々あるので、後輩の皆さんに見ていただきたいと話が出ました。役員会では実行委員会を編成し、委員長には坂内茂男初代会長を選出し、窯業・セラミック科卒業生の皆様方に御協力をお願いすることといたしました。美術展へ出品の依頼を行いました。

作品等は工芸品・絵画・写真・彫塑・看板工芸・石像・盆栽ほかと、諸先輩の作品がある鶴翔会館に集めての七月十三日から七月十七日まで開催致しました。

母校・母校同窓会の共催により開催することができましたのも、学校長始め、科の先生方のご支援・ご協力有ったからこそです。

十周年記念総会は第三土曜日の七月十七日午後四時からホテルいづみやにて、開催いたしました。今回の総会では、セラ友会設立から今日までにセラ友会の発展のために活動し、支援された方々にたいして感謝の気持ちを表すため、感謝状贈呈を行いました。



設立10周年記念総会



感謝状受賞者

吉田一榮氏・坂内茂男氏・佐藤松夫氏・鈴木寛長氏・坂場恒雄氏・齋藤四志男氏・坂垣正宏氏・佐藤正道氏の八名の皆様、本当に心からありがとうございます。申し上げます。

総会後には記念講演会として、『会津本郷陶工達の戊辰戦争従軍の背景について』と題して、新潟巻史学会副会長・会津史学会理事(昭和二十九年卒)の鈴木利雄氏の講演をいただきました。記念写真撮影後、福島県立の高校ということで、母校校舎の現状に対して、理解と協力をお願いする観点から、三名の県議会議員・市会議員等の来賓を交えて記念祝賀会を開催致しました。

来年には、『セラミック化学科』卒業生の会員を迎えることとなります。その為にも、事務局体制の強化にいつその会員皆様の協力をお願いいたします。次年度総会では皆様の元気なお顔を拝見することを祈念して報告とさせていただきます。

役員以下の通り。

顧問 吉田 一榮・坂内 茂男
高橋 司・高羽 芳満
津田 英雄・石井 久夫
坂場 恒雄 進・佐藤 松夫



設立10周年記念祝賀会 (ホテルいづみや)

一意専心

美修会

会長 白井 充

(昭42工芸卒)

私は、会津美里町(旧・会津本郷町)出身で、中学三年生の秋、父親を亡くし、母から高校進学を断念するように言われました。でも、進学することを諦めきれず、学校の保証人及び奨学金の保証人すらいず、担任の大塚三次先生に保証人になってもらい、やっとの事で、昭和三十九年、会津工業高校へ進学することが出来ました。

その後の生活は苦しく、母・弟・妹との家族四人の生活費を稼ぐため、毎朝三時半に起き、牛乳配達、駅への新聞の引き取り、新聞配達、冬には臨時バスの車掌、日曜日などは農家の手伝い、夜には中学生の家庭教師として、息つく暇もな



威風堂々

昭和電工 東長原会工会

支部長 山口栄喜

(昭46電気卒)

日頃より会津工業同窓会には何かとお世話になりお礼申し上げます。

当東長原支部は、磐梯を間近にした緑豊かな地域環境にある河東町東長原長谷地地区にあり、この昭和電工の敷地には、昭和電工株東長原事業所、キャボットスーパームタル株会津工場、中央化成製品(株)会津工場並びに常駐協力企業等の各社があり、有機化学や無機化学などの化学工業製品と、電子材料等の非鉄金属関係の生産等を行っており、現在の会工同窓会の会員数は58名で、各職場の責任ある立場で昼夜活躍をしております。

このように各企業に勤務している会工会の同窓生で、会工同窓会東長原支部を運営しているものですが、各会社より幹事を選出し支部長並びに副支部長等を決め、会員相互の親睦を図り、情報の交換と自己啓発に努めることを目的に活動を行っております。

近状の活動状況を報告申し上げますと、「会工同窓会東長原支部会則」の規約に則り、毎年4月に総会を開催し、前年度の反省及び今年度の活動内容等を決定し、各

三菱伸銅株 鶴友会

支部長 番場幸雄

(昭49工化卒)

三菱伸銅株若松製作所には、現在百三十名の卒業生が勤務しており、製作所人員の35%を締めております。

この中で以前より会を結成し鶴友会と称し、花見、旅行などの催しを企画、実施しながら介意の親睦を深めております。

昨年度は世界的大不況に依り、新入社員ゼロという厳しい状況でしたが、幸いにも六月頃よりV字回復し、います大変な繁忙で会社も活気に満ち、鶴友会のメンバーもみな元気に活気に満ちた生活をしております。

このような年代の変化の中で親睦会で飲む酒も、話も変わり、昔



REPORT&MESSAGE

OB会

サッカーOB会

中島和一

(昭50窯業卒)

会津工高サッカー部OB会は15日母校グラウンドにて、同校サッカー部に激励金を贈った。



毎年8月に開催しているサッカー部とOB会の交流会(母校グラウンドにて)

激励金はOB会が有志から募り毎年何らかの形で贈っている。同OB会の中島和一さん、飯塚裕さんが「全国大会に出場してほしい」と部員を激励し、目録を渡した。部員代表らは「全国大会へ行けるよう、いい成績を残せるよう頑張ります」とあいさつした。贈呈式後、部員と練習試合を行い交流を深めた。

バレーボールOB会

OB会事務局 早川茂次

(昭51電気卒)

平成二十一年度における会津工高バレーボール部は、新人戦、インターハイ、総体共に会津地区の各大会、全て優勝を飾り、さらにインターハイ、総体にも県大会三位という、素晴らしい戦績を残してくれました。

OB会としても、県大会にこそ応援が叶いませんでしたが、会津地区の各大会には我々OBも保護者の皆さん方と一緒に、活力をもらいながら応援、激励することが出来ました。

一方、毎年八月十五日に実施しているOB会総会と合同練習会(会津工高体育館)には保護者や保護者OB会の皆さん方も見学、応援する光景が見られ、バレーボールへの熱いものが広がっているように感じられました。

新体操OB会

藤田栄一

(昭54電気卒)

はじめまして、昭54E卒業の藤田栄一と申します。新体操と関わ

りだしたのは、五年前、會工新体操部OBで、華舞翔新体操倶楽部監督の山田智史君(平成10M卒)から、作曲、編曲を依頼されたのが切掛けでした。それまで母校に新体操部が在る事を、恥ずかしな

が知りませんでした。普段はライブをしたり、依頼されて作曲もしていましたが、新体操は、民謡やクラシックからPops、ダンス系など、さまざまなジャンルを使用するのに加え、色々制約があり、個人で1分半前後、団体競技で3分前後、それを演技に合わせて曲調を変化させなくてはならないなど、経験のない分野なので、大変苦労しています。

曲を作った聞いてもらう時は、スイッチを押すだけなんです。長時間の作業工程や生みの苦しみは、目に見えないのが辛いところです。でも、出来上がった曲を喜んでもらった時や、競技大会などで演技と一緒に曲が流れた時には、それまでの苦悩は、すっかり消えてしまっています。その感情は、生徒達が日頃辛い練習をして、大会で思いっきり演技しきった時と同じではないかなと、勝手に思っています。

まだまだ力不足ですが、部員達がいい演技が出来るよう、少しでも役に立てればと思っています。しかし、音楽が縁で母校に関わる事になるとは、夢にも思いませんでした。

新体操部、がんばれ!

クラス会 4C会総会

岡島文弘(昭29工化卒)

私達、二十九年度工業化学科卒業生は、卒業の翌年より「4C会」という名称で、二・三年に一度の割合でクラス会を開催しております。

最近では、平成十九年度、東京上野「水月ホテル鵜外荘」(文豪森鴎外ゆかりの宿)、二十一年度は、スバリゾートハワイアンズ(元常磐ハワイアンセンター)に於いて開催し、楽しい一時を過ごしました。

総会は、すでに他界したクラスメイトの冥福を祈り、続いて各人の近況を一分間スピーチとして報告し、最後は校歌斉唱で締めくくりました。

さて、お待ちかねの宴会は、飲んで食ってアツという間の二時間でした。

宴会後は、幹事の一案に集まり、囲碁の対戦をする仲間、車座になり飲みながら話が尽きない仲間、深夜になってしまいました。翌日は、再会を誓って、それぞれ家路につききました。

最後に、我がクラスメイトの出版を紹介させていただきます。堀井啓介君(会津美里町出身・岐阜県山岳連盟副会長、日本山岳協会理事)が、嶋田靖(日本山岳ガイド協会理事、飛騨山岳ガイド協会会長)氏との共著で「岐阜県

一生懸命

の山」という登山ガイドブックを「山と溪谷社」の依頼により出版致しました。山岳登山に興味のある方は、是非ご覧下さい。



35Eクラス会

五十嵐 勝（昭35電気卒）

昭和35年度の卒業という、今から1/2世紀も前のことである。この年の一年前にいまの天皇陛下、皇后陛下が婚約された年であった。当時、クラスメイトのひとりが昼休み学校から抜け出して新聞（号外？）を持ってきたのを思い出す、そんな時代であった。

さて、35Eのクラス会は毎年行っている。毎回出席する人は二十名弱ながら、関西、関東圏および岩手、宮城県等の遠くから集っている。当然のことながら酒飲みの仲間である。そのなかで趣味の域をはるかに超えて活躍している人も

皆既日食を見るために、2006年トルコの Cappadocia、2009年中国へと旅行してきたり、天文観測でボランティア活動をしている人。または、日本百名山を踏破した人とか。今後もそれぞれ更に計画している様子。体力・気力共にうらやましいやら、感心するやらである。

クラス会の場所は毎年同じ「四季を彩る天栄村・二岐温泉―柏屋旅館―」である。二岐温泉の川のそばにあり、岩風呂・野天風呂等の山奥の温泉である。クラスメイトの親族が経営している温泉宿で、そのクラスメイトが運転手を兼ねているので、送り迎えから次の日は近場の観光も兼ねてマイクロバスで回ってもらっている。

例年のごとく会津若松駅前で購入（酒類）し、車に乗り乗る間もなくすぐに宴会が始まる。旅館までは大体四十分ぐらいなのだが、着くころにはかなり出来上がってしまう。

だいぶ前のクラス会、雪の降った年のこと。旅館の手前の坂道で、郵便屋さんの車が側溝に車輪を落とし動けなくなっていて、独りで苦戦していた。雪の降る中だった、酒もまわってきいていた我々男子十数人車からおりて、一気に助けてやったこともあった。

更に、このとき関東圏からきたクラスメイトの車のチェーンが逆さにセットされていたとか（天栄村からは普通タイヤでは無理なの

乾坤秀霊

であわてチェーンを掛けたとか。これも酒の肴になった。夕食時の宴会、その後の部屋での宴会等々、酒を飲んだ時の話題、会話はとにかく和や和やと話をしているが、内容的にはほとんど次の日には覚えていない、そんなものである。（断片的には一部覚えて

酒宴は、神事のあとの直会と良く結び付けられるが、今では日常生活において酒の場は不可欠になっている。近々、古希を迎える年代になって、特にクラス会中学校を含め酒の場が多くなるであろう。若くはないが日々体調に気をつけてクラス会を待ちたいものである。

38Mクラス会

昔の表情

即座に戻る

長谷川市郎（昭38機械卒）
会津若松市の芦ノ牧温泉大川荘で十三年ぶりに開きました。クラスの約半数の二十四人が参加しました。

恩師山本清三先生を囲みながら「秒息災」の話になぜか納得したり、高校卒業後初めて参加した友もいたり、互いの変ぼうぶりにびつくり。急には名前が思い出せなかったりしましたが、すぐに、いが栗頭の昔に戻り、カラオケや語らいて楽しいひとときを過ごしました。（会津若松市北青木2の30長谷川市郎さん写真提供）

平成21年10月 福島民報社提供



13年ぶりに旧交を温めた同級会

40Mクラス会

桜植樹完了式典に併せて

戸野部武彦（昭40機械卒）

平成22年4月24日、『東京会工立10周年母校桜植樹完工記念式典』と『懇親会（於ホテルいづみや）』が行われ、併せて40M（昭和40年機械科卒）のクラス会が行われました。この企画は鈴木邦男君の発案により彼から年賀状で連絡され、次いでクラス会1ヶ月前の3月下旬頃、出席者へ・45年前のイメージが浮かぶようにと①鶴雲第4号昭和40年2月20日発行②機友No11 ③昭和39年度卒業記念写真④同窓会報 ⑤今回の出欠返信 ⑥住所録改訂版が郵送された。この40Mのクラス会は28年振りに開催されたもので今回は14名の参加がありました。受け付けにいた小生は前回（昭和57年）のクラス会には出席出来なかったのので遠く福岡から駆けつけて来た室井君には45年来であり、凝視して『アー室井だ』と手を取り合いました。彼は『卒業記念誌』に「俺の感じた機械科の奴ら」を書いた方です。やはり顔のどこかに必ず面影があるもので時間とともに、校舎とともにタイムスリップしました。母校の校門を入ってすぐ左側で記念碑の除幕式が行われました。懇親会場所は移して「ホテルいづみや」で、そしてクラス会はパーティー終了後、運よく同じホテルのご好意で2階の小宴会場を用意して頂き、開催されました。クラス会はひとりで5分間の45年分の

REPORT&MESSAGE

人生を自己披露しながらスタートしました。45年分は5分では語り尽せず15分経つても現在に到達しない方も延々と続きまして。以下に参加前とクラス会後のメールや手紙のやり取りを掲載し、次のクラス会には、より多くの方が参加される動機になればとご紹介させていただきます。



【クラス会後の便り】

①幹事ご苦労様です。おかげ様で出席できた自分の幸せを感じています。又、各人のいままでの人生、そしてこれからの人生に対して前向きに生きようとする想いを受け取ることができたと思います。今後共よろしくお願い申し上げます。

②戸野部から5月31日クラス会の集合写真の送付を星善雄君に依頼した際の便りです。その後、お元気でお過ごしのことと思います。先日メールで連絡したように『同窓会会報・2010』の原稿を書

いています。『写真』も載せたいと思いますので先日送付戴いた写真のうち、集合写真を送付願えれば幸いです。③写真をメールで送付します。早いもので、もう一ヶ月が過ぎましたが、懐かしい面々と会えたこと、感激がまだ褪めていません。皆さんカッコいい60才に成長してたね。それから、高校時代から酒を飲んだ奴は益々酒豪になり、高校時代からタバコを吸った奴は卒業してたりして、ここにも大いなる成長が見られました。

星

善雄

④早速のご送付を有難うございます。この『同窓会会報・2010』に載ることで、より多くの級友が集うことを願っています。他のクラスの方もおられますが、式典後でもあり許されるでしょう。写っていない半澤一夫君は写し手でしょうか？

戸野部

最後に、今回の幹事を出席者全員の熱意に推されて、引受けて頂いた、佐藤雅博君からのメッセージです。

『先日は大変に貴重な時間、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。企業戦士としての勤めを終えられて充実感に満ちた顔、顔、そして話もつと多くの仲間会いたい。顔を見た。話もしたい。星善雄君から写真が届きました。そちらにも届けられてるかも知れませんが転送します。次回皆と会えるよ

うに、健康に留意して、がんばろう。幹事佐藤雅博君のサポートを快諾してくれた猪政光君、大竹隆君、今回の企画を期待。誌上をお借りして次回の40Mクラス会と呼び掛けをします。沢山の参加をお待ちしています。※半澤一夫さんは寄稿後の6月20日永眠されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

41Mクラス会

飲んだくれクラス会

五十嵐 豊（昭41機械卒）

部屋に入ると田中・久・村岡・秀夫・利己がもう飲んでる。秀夫が隣の部屋からビールとグラスを持ってきて注いでくれる。なんと気が利く奴だ。まずは駆けつけ3杯とグラスを空ける。一枚のメモを渡され、頭が良いと読めるから大きな声で読め、と声がかかった。

始めから声が出ない。字が判別できないのだ！。なんだ、どうした！とチャチャが入る。これは電話だ。そうかと次に進むがすぐに止まってしまふ。村岡が、「字が下手で読めぬ」と。なるほどこの手紙をつまみに酒を飲んでいたようだ。メンバーが来るたびに繰り返す。手紙の主は村山だ。内容は、参加できない代わりにミズノのシャツを十五枚送ったから貰ってく

41Kクラス会

片岡和夫（昭41窯業卒）

今回のクラス会は、セラ友会設立10周年記念総会（7月17日）に合わせて同日に開催しました。OBの出席は約60名でした。うち10名が我がクラスでした。先輩達にまとものあるクラスをPRすることが出来ました。

クラスの仲間には、OBの美術展に出品してもらったり、民謡を

十周年の記念行事を盛り上げていただきます。クラス会には十一名参加し、夜遅くまで高校時代の思い出話に明け暮れ親睦を深めました。



7月17日ホテルいづみやにて

十周年の記念行事を盛り上げていただきます。クラス会には十一名参加し、夜遅くまで高校時代の思い出話に明け暮れ親睦を深めました。

根性一途

海外登山も視野に
新潟のガイド 佐藤さん（猪苗代出身）講演

猪苗代山岳会の創立五十周年記念式典は二十八日、町内の猪苗代鶴光ホテルで行われた。会員やＯＢ、来賓ら約五十人が出席、半世紀の歩みを振り返りながら一層の研さんと飛躍を誓い合った。

18 | 会工同窓会報No.35
'10(平22)総会号

異業種間交流活発に

宗像利浩 (昭50窯業卒) 福島民友提供

新商工会長に聞く



会津美里町 宗像利浩さん

異業種間交流 活発に

新鶴の各地域の特長を生かした振興をサポートするため身近な商工会つくりで重点を置き、「活力ある会津美里町」に向けて尽力を尽くす。

商工会合併から一年がたつが、会津高田・会津本郷、を強くすることが大切。

旧三町村それぞれが活気づくことで、町全体の活性化につながる。景気の良い時代には、業界内の競争が活気を生んでいる。さらに、会員サービスの向上につなげるため、商工会職員が働きやすい体制づくりに積極的に取り組んでいる。

霧氷の雄国

北塩原村の雄国沼。十一月も終わりに近づくと、冬の装いが濃くなる。冷え込みも一段と厳しくなり、樹木に付いた水滴が凍り、山肌を白く染める。低く垂れ込めた雲間から差し光が山々を温かく包み込む。赤い実をぎっしりと付けたナナカマドも霧氷に覆われ、秋から冬への季節の移り変わりを印象付ける。

二科会写真部福島支部 佐藤 友信さん (喜多方市、地区幹事) コンタックスAX。80〜200mm。F16、オート

白く染まった山肌

ボクシングを楽しんで欲しい

遠藤広大 (平15建築卒) 毎日新聞提供

●元高校チャンピオンのボクシングトレーナー



1984年会津若松市生まれ。会津工高卒業、平成国際大中退。02年の茨城インターハイボクシング競技ライトウエルター級で優勝、高知国体で同級優勝。オールソックススタイルで、左フックが得意のボクサーファイター。妻美樹さん(22)、長女千晴ちゃん(10カ月)、両親ら10人家族。

面白さ知ってもらいたい

フロアの中央に据えられたリング。天井からつり下げられたサンドバックやパンチンボール。リングの周りにはランニングマシンなどのトレーニング器具が並ぶ。「あしたのショー」のおんぼろジムとはイメージが違うが、これが現代のボクシングジム。男の熱意の館だ。と思いきや、会員約50人のうち半数が女性だという。

ぶくしま人模様



山口 雅文

競泳の日本選手権第3日は15日、東京辰巳国際水泳場で行われ、男子100メートルの予選で山口雅文(ミズノ、会津工高卒)は54秒66で3位に入った。

男子100背 山口 雅文 (会津工高卒) 3位

山口雅文 (平15セウ卒) 福島民友提供

競泳の日本選手権第3日は15日、東京辰巳国際水泳場で行われ、男子100メートルの予選で山口雅文(ミズノ、会津工高卒)は54秒66で3位に入った。

りがかった」と振り返る。中学まではサッカー少年。県立会津工業高校でボクシングを始めた。ボクシング漫画に影響されたわけではなく、あこがれのボクサーもいなかったが、「格闘技をやり、強くなりたかった」という。走り込みばかりのきつい練習で、30人いた新入部員が2カ月後には10人に減った。スパーリングで先輩に一方的にやられ、負けん気に火が付いた。1年生の冬、県内の新人戦で優勝。「相手のパンチが来るようになり、圧倒的に勝った。オレやれるぞ」と思った。2年生でインターハイに出場し、国体では3位。部長になった3年生では、インターハイと国体の2冠を達成した。

ボクシング特待生として進学した平成国際大では、04年の全日本アマチュアボクシング選手権で3位入賞を果たしたが、「成人は身体の強さ、力の強さが違った。短気でこうっ気が強かった自分が、少し大人になってしまった」と重を感じ、フロアの夢はあきらめた。「自分の拳だけで、自分の強さを完成できる。嫌だと思っても殴らなければ、殴られる。相手が打ってくるのが分かり、怖いと思うが、そこで踏み込まなければパンチを当てるチャンスはない。五感を競う競技だと思つ」とボクシングの魅力を語る。「相手のパンチをかわして、きれいにパンチを入れた瞬間は気持ちがいい。今でも身体が覚えていて。ボクシングの醍醐味」と付け加えた。

ジムには、母校の後輩たちも練習に来る。「上達した。気持ちの強さとか、技術、フラスアルファの部分でも伝えられるものは伝えたい」という。「周囲はトレーナーと見て、いかにも強いが、ボクサーを引退したつもりはない。練習不足は否めないが、まだやるつもり」と面堂に力を込めた。【太田穂】

あの頃と今日この頃

五十嵐隼夫 (昭26機械卒)

「頑張れ！頑張れ！健男児・・・」と出征する先輩を、若松駅で見送ったあの頃は小生十三歳が、先輩は十七、八歳。私は先輩の日の丸の襷がけ姿が輝いて見えた。よし俺も先輩と同じようにこの駅頭からと誓って振る腕、握った帽子に力がはいった。ところがまもなく終戦、学生生活も六年間と制度変更し混乱した。やがて就職行動となり、小生は当時としては遠い常陸の国、見たこともなかった大海原を眼下にした企業であった。

風の強い夜は松林が唸り、荒れた海に恐ろしさを感じ、無性に郷愁の思いを掻き立てられた。やがて神武景気、所得倍増、列島改造論等々戦後復興のためみんな必死で働いた。あの狂騒でみせた世の中を脱落もせず、今喜寿を越えた。そして益々元氣と「ヤセ我慢」を云いながら、医者と薬とに上手につき合っている賜物と感謝している、世に言う後期高齢者と名付けられた。人生二十歳から五十歳は正に花盛りで何をやってても充実、突っ走って人生を謳歌し、俺は「会津白虎の固まり」と何かと過剰となり、ご迷惑をおかけした方々も少なくない。経済の発展は国内から、海外案件が増大し、小生どもの仕事の拠点も海外へと移った。人権、言語、生活習慣等異文化の中「頑迷会津っぽ」はなかなか順応できなかったが、結果は同じベクトルを向いているのだから、心は通じやすい。親密感が高まり、頑迷会津っぽはいっしょにお人好し日本人と化するの早いもの。

先方の御家庭迄入り込んだりしての海外生活は楽しくても、苦痛は少なかつた。この様な平和な環境で思うのは、会工一年生の頃の若松駅頭での応援歌は何だったのか。時代のギャップ感と簡単に言い切れなく、複雑な思いも先人の

尾張の国から

東海会工会名誉会長 佐瀬 一信 (昭26電気卒)

私の住む小牧市は尾張平野の中央よりやや北にあり、標高85.5m尾張平野を一望出来る小牧山の頂きに小牧城がある。戦国時代織田信長は桶狭間戦勝後美濃攻路に着手、永禄六年小牧山に築城、清須から引越し同七年稲葉城を攻略し小牧城は廃城となるが、その後豊臣秀吉と、徳川家康(小牧・長久手の戦い)において家康の陣となる。

昭和二年小牧町の所有となった。最近小牧周辺の発掘調査が行われ当時の遺品が多数発掘された。田園地帯であった小牧市に工場が誘致され、交通網の整備に伴い東名・名神高速道等便利でトラクターミナル基地が出来て、全国からの集配荷物で繁盛している。最近是不況により、厳しいようだ。小牧市内にはJRの駅が一つもない。定期バスは赤字で廃線となり、車のない家庭や老人からみれば陸の孤島である。以前は徒歩圏内で生活が楽しめたようだ。神社仏閣の行事は盛大に行われていた。我が町内にも宇都宮神社がある。略記によると応神天皇の御代創建とされ、尾張地方で最大級の前方後円墳の中に本殿、祭文殿手水舎などが配置され、参道には平安朝初期の歌仙、業平公の詠んだ石碑がある。御祭神の主神は大名持命、私は総代として毎月二、三回諸行事に参加している。昇殿正式参拝は正装して、農産物やお神酒をお供えし、宮司の祝詞を拝聴し、お供えの上げ下げは総代の仕事である。【敬神生活の綱領】が配布

冒険心

佐竹 重男 (昭27工化卒)

あそここの淵には、河童が住んでいるから独りで行つては駄目とか、どこそこ沼には大蛇がおるから近づくなとか、あの崖の洞穴に入ると深い穴に落ちて出られなくなるぞ、等の話はよく聞きました。

子供も少し大きくなると、怖いもの見たさに友達と隊を組み、それなりの準備もして、冒険とか探検とかといって恐る恐る行き、適当なところで引き上げ、翌日あたり級友に、その時の心ときめきを交えながら、自慢げに話をしたり、興味深げに聞いたりするものです。もしも、このような冒険心とか探究心とかが無かったならば、我々人類の姿は地上に無かったことでしょう。

会津本郷陶工達の 戊辰戦争従軍の 背景について

鈴木 利雄 (昭29窯業卒)

一、はじめに 戊辰戦争において、会津領大沼郡橋爪組本郷村現福島県大沼郡会津美里町の陶工達は、十五〜十六歳から四十歳前後までの身体その他の点で特に軍役に適さないようなもの以外はほとんど全員、藩の重大危機に奮起して軍役に服し日光方面、越後方面、猪苗代方面、鶴ヶ城の守備、そして地元本郷の守備など各方面の戦闘に赴いた。 しかも彼ら志願兵は、みな「土分扱」をうけていたとはいえ、もともと陶業に専念していた

人類は、はるか昔の太古から、生きがため獲物を得るために、険しい地形に阻まれても、また漁貝類と安住の地を夢見て、逆戻りのできない海流に乗ってでも、未知の世界を求め続けて来ました。 そのことは、人類の命を今に伝えて来ている大きな要素であると思います。

人類が火を手に入れたこと、また食草と毒草の区別や薬草の効用等々、先人の探究心と冒険心には頭が下がります。 毎日を命がけで過ごした昔とは環境も大分違いますが、この冒険心・探究心、我々の遺伝子の中にしっかりと組み込まれており、今以って健在です。

海・山の探検のみならず、ナノの世界から宇宙の極みまでを、とことん探究したいと、今日も、生命体の合成とか、小惑星に着陸後、帰還中の「はやぶさ」のことや金星探査機「あかつき」打ち上げ等の記事が賑やかです。

我々、これからも、子供達の遺伝子の中の冒険心が、質・量ともに立派に育って行くようにあれもこれも経験させて行くとともに、冒険心が人類の安全と安心を脅かすことの無きように願っています。

職人達であり、平素困難に殉ずることを使命として訓練されてきた正規藩兵の精鋭にいきさかも劣るところがなく、戊辰戦争に身を挺して戦ったのである。

そして、なぜ近隣の村々より比較的多くの人達が従軍し、なぜ数え十五歳の少年までも従軍しなければならなかったのだろうか。

二、当時の会津本郷焼の状況

会津本郷焼の起源は、保科正之が正保二一六四五(五年)または四年とも、岩瀬郡長沼で焼物造りをしていた美濃国瀬戸の陶工水野源左衛門を呼び寄せ窯を開いたのが始まりとされているが、そのそもその発端はそれ以前蒲生時代に三郎右衛門という者が屋根瓦製造していたときまでさかのぼる。

以後、本郷村の陶業は会津藩の殖産興業の発展に組み入れられて来たが封建制度、身分制度の中での陶工達の生活の基盤は決して安定したものではなかった。

安政年間に入ると、折からの不景気のためにせっかく発展して来た陶磁器業も衰退してしまふというので抜本的な振興策を求める声が始まり、陶師・陶工達の子弟、二・三男、弟子達の分家一家作のための土地調達の問題から端を発し、地方土地新作者として村方行政の対象となるという意味として藩に承認せよという動きとなった。安政七(一八六〇)年四月地方願書が提出される運びとなった。これは陶師・陶工達が皆土地をもつて地方扱いをくれ、その代償として、外国船の渡来や尊王運動など国情不穏の際につき、南筋一方本郷村は日光街道筋に当たる(の警護に当たりたい)というものがあった。その折衝に紆余曲折がありなかなか進展しなかったが、文久二(一八六二)年閏八月一日藩主松平容保が京都守護職を拝命するに至り、藩兵の三分の二は京都の守りに当たり、手薄になった国元の備えを強化する必要となった。翌文久三年六月二八日御留守備の編成がな

され、かねてから御警衛勤の願い出ていた本郷村の陶師・陶工達の先ず二十一名が採用された。このため藩では、懸案の陶師・陶工達の願いを認めざるを得なくなり、野地、空地、無毛地を開墾するというところで元治元(一八六四)年七月地方給分並に南口警衛勤の願いが正式に許可された。しかし、地名義ながら実質的には今まで通りの産物役所及び普請方の陶師・陶工達であり、これによって発展の基礎が築かれた。

しかし、東の間で慶応四(一八六八)年一月戊辰戦争が勃発する。

三、戊辰戦争従軍の背景

(イ) 国を守る気概

国を守る気概には、それなりの下地が本郷村にあった事と思われる。享和三(一八〇三)年会津藩の大きな事業の一つである「新編会津風土記」の編纂に携わる博学者の田村三省が、その五年前寛政十(一七九八)年に本郷瀬戸掛を命ぜられ本郷村人達は、彼に触発され「私塾」が盛んになる。水野瀬戸右衛門の読書算、原留之進の一般教学、小松峰五郎の漢籍一般による所が大きい。

武術に関しては、本郷村の隣接地の北原本郷原とも言うに会津藩の軍事訓練場があり、折々に村民は手伝いに駆り出されていた。嘉永六(一八五三)年三月「撃剣場」と称する武芸稽古場を設けて剣道、弓道、小銃射撃などの師範を招いて訓練に余念がなかった。その師範の中に会津藩武芸指南役小平左限、太子流兵法範範の金成伊兵衛も含まれている。また、折々は若松に向いて正規藩兵たちと一緒に合同訓練を受けるなどして有事の日に備えたという。

(ロ) 「地方給分並に南口警衛勤」による藩との約束

前述の地方願書にもとづく南口警衛の約束を守ったと思われる。

今こそ人生の出発点

郡山会工会

折笠光助

(昭33漆工卒)

日本経済は、世界一の技術力に支えられ、現在まで発展してまいりました。就職難の昨今ですが徐々に回復しております。お寺のご住職がこんな話をして下さいました。『人生百歳頃まで生きられる時代だが、日数に換算すると三万六千五百日、四十年働いたとすると一万四千六百日になる。長いようで過ぎ去って見れば短いかもしれない。』日に新、日に新。一日一日が充実のある生活をする長い長い人生そのものである。人生は失敗の連続、失敗は成功のもと、恐れる必要はない。心に充電し信念を持つて行動すれば開眼するものです。』学校は人間関係を学ぶ所、社会は大きな夢、目標を持つて実行する所、明るく友愛社会を照らす人になって下さい。元福島県知事松平勇雄様に色紙に「友天下之善士」と書いて戴きました。天下を取る為には、少数でよいから良い友達を持つこととおっしゃいました。例えば皆さんが家庭を持った時、救急で家を離れる時、家の合い鍵を家族以外の方に渡せる友人近所の方一人でも作れますか？普段から信頼できる友人を作っておくべきではないでしょうか。趣味を持つことも大事、一生通じてできる趣味をコッソツと実行し、俄か趣味ではなく、「継続は力なり」だと思います。我を張らず頑張って下さい。今こそ人生の出発点。小生成めの為書いてみました。

折笠兆春(光助) 略歴

昭和15年2月14日会津に生まれる

昭和33年 会津工業高校漆工科卒

父 光民氏に師事現在に至る

住所 郡山市安積町

(ハ) 軍政改革による「農町兵」募案に志願

農民を「野兵」と称して一人二人扶持と二百文を与え、町方は町兵隊として土分扱とした。本郷村では、この困難を座視するに忍びず陶工隊を組織し全員「土分扱」とされた。

四、記録として残る北越戊辰戦争への従軍

血書をもって志願した陶工達三十六名は、慶応四(一八六八)年水原府鎮将萱野右兵衛隊二百五十名の内に組み入れられ、それぞれ片桐喜八隊、山田清助隊、宮下藤太隊の三物頭隊に付属されて三月十二日若松を出発し、三月十四日水原町陣屋に到着する。

閏四月二十九日まで水原に滞在し翌五月一日長岡へ向けて出発する。実際に戦闘に入るのが五月十日浦柄の戦いからで栃尾、栃堀と戦戦し、杉沢、加茂、三条、地蔵堂を経て、五月十七日与板で戦闘に入り小島、島崎、北野、地蔵堂と戦戦し、六月二十四日一旦水原に帰陣する。七月二十一日水原を出発し新津、加茂、三条を経て、七月二十六日酒屋陣屋にて新発田藩の寝返りを知る。翌二十七日保田草生水の戦闘で佐藤政治(二十二歳)戦死、八月一日保田草生水で小川勇之助(十九歳)、進藤忠節(二十八歳)戦死、八月一日保田赤坂山で岸清兵衛(三十五歳)、栗城惣吾(三十七歳)戦死、遠藤寅之助(四十二歳)重傷を負う。重傷の寅之助は萱野陳將の命により戸板に乗せられ、子の平太に付き添われて八月十日若松に到着したのち八月二十四日大沼郡曹組村現大沼郡会津美里町西本曹妻の実家金田九郎左衛門宅で死亡。

残った隊員達は、それぞれの物頭隊長に従いあとから若松に帰還するが城に入らず九月二十二日降伏の日まで郊外で戦ったという。

五、戊辰戦争後の本郷村の状況

慶応四(一八六八)年九月四日西軍の放火によって村全部が焼かれ、窯場の大部分が焼失しほとんど壊滅状態に陥ったが、各方面への従軍から帰郷した陶工達の不屈の精神と明治二(一八六九)年新政府「民政局」の積極的な陶磁器業振興策により、製造家一戸につき金百円内外の年賦金の貸与を受け、事業の挽回を図ったので、おおい旧態に復することができたといわれる。

定年退職を半年後に控えて想うこと！

千葉大学大学院工学研究科教授

渡部 武弘

(昭39機械卒)



半年後には、四十年近く勤めた千葉大学を去ることになりました。会工・機械科の卒業時には、以下のような人生を歩むとは夢想だにできませんでした。卒業後、日立金属(株)深川工場に勤務し、一年目は鋳物図面の製図、二年目は自動車部品品の軽量化に従事しました。各部の強度を測定するための治具を作製し、歪みゲージを貼り、余肉を削ぎ落とす研究です。約一年をかけ、結果を報告書にまとめ、自動車会社に提出しました。身に余る評価を頂き、満足しました。しかし、実験を進める中で大学卒の上司や先輩と議論をしましたが論破されることが多々ありました。会工で学んだ内容には自信を持っていましたが、幅広く解釈する能力が不足していたようです。そこで、大学進学を決意しました。実家は非常に貧しい農家でしたが、父は快く了解してくれました。農閑期には東京近郊で出稼をし、サポートして頂いた結果、千葉大学に合格しました。合格直後から、アルバイト先を探しましたが、工業高校二年での実習助手を探しましたが、公務員試験に通っていないとダメと断られました。結局、新聞配達を始めました。三年生からは授業が多くなったため、朝刊のみにしました。大学院生時代には、夜間部の助手をし

れる。

尚、水原府鎮将萱野右兵衛は会津藩降伏後、越後高田藩に謹慎預かりののち部下であった本郷村の陶工達の懇切な勧誘により余生を本郷村で送り、陶土原石の粉碎水車を作って採石業に従事した。地元のひとびとはこれを「萱野車」とよんだ。陶工達と親しくつきあったが、惜しくも明治五(一八七二)年五月十九日病死した(行年三十三歳)。

又、北越戦線及び各方面の戦線から帰郷した陶工達は、これからは産業教育が大切だという気運が盛り上がり明治二十八(一八九五)年四月一日「村立本郷窯業徒弟学校」(現福島県立会津工業高等学校の前身)を設立し、初代校長に東京工業学校東京高等工業学校、現東京工業大学の前身窯業科第一回卒業生の柏村善八(柏村善平の末子で孫作の末弟を迎えた。設立に当たっては、「日本の徒弟学校生みの親」といわれた東京工業学校校長手島清一氏、福島県属中川駿太郎氏の両人の格段の尽力のお陰であり、言うまでもなく明治二十七年公布の実業教育費国庫補助及び徒弟学校規定孝受けてのことである。

引用文献

『会津本郷焼の歩み』福島県陶業事業協同組合「本郷町史」会津本郷町
『遠藤平太会津戊辰戦争従軍記』遠藤進
『平太の戊辰戦争』株式会社角川書店
『寄合白虎隊』会津文化財調査研究会
『新編会津風土記』雄山閣
『会津の歴史』株式会社郷土出版社
『会津の幕末維新』会津若松市
『会津のやきもの』会津若松市
史料が語る会津の歴史「歴史春秋社」
『京都市職職と会津藩財政』歴史春秋社
『明治の土族』歴史春秋社
『会津戊辰戦争』東京大学出版会
『幕末維新全殉難者名鑑』新人物往来者
『安田町史』安田町

鈴木 利雄 略歴

出身…大沼郡会津本郷町(現大沼郡会津美里町)現在 巻史学会副会長 会津史学会理事

て生活の糧としました。大学院修了後は助手に着任し、助教を経て現在に至っております。昨年の三月までは工学部副学部長と工学研究科副研究科長を務めました。昨年の四月からは産学連携統括推進部長を務めております。多くの委員会の委員長も担当させていただきました。さほどの脳力が無くても、体力、気力、忍耐力があれば、人並みの仕事が出来ます。これも会津に生まれ、育てていただいた賜物です。小・中学校と駅へは四キロの道のりを地吹雪の中でも通い、心身を鍛えられました。家が貧乏であったため、家に帰ると夜割りまで手伝いをさせられ、勉強は学校でしか出来ず、集中力を鍛えられました。「ならぬことはならぬせぬ」を信念としたため、脳力以上の仕事をさせていたいただきました。このように、昔の会津の厳しい自然環境や貧しい農家に育ち、農業を手伝わされたこと等の全てが、私を育ててくれました。現在の社会環境は厳しいですが、生徒の皆さんも会津に生まれ、育てられたことを誇りとし、自分の能力を信じ、希望を持ち、夢に向かって邁進して下さい。

同窓生美術展

セラ友会事務局

梨子本 傑

(昭41窯業卒)

「セラ友会」設立十周年記念事業の一環として、窯業・セラミックス科卒業生の「同窓生美術展」を7月13日から17日まで同窓会館「鶴翔会館」にてはじめて開催いたしました。

会場には同窓生約40人による焼きものや絵画、写真、工芸品など約60点を展示し、初日は同窓会館前でオーブニングセレモニーを行い、渡部会長があいさつ、羽二生幸雄校長、手代木同窓会会長らが祝辞を述べた後、関係者がテープカットをし開幕を祝っていただきました。

同窓会に思う

東京会工会
田中
健一

(昭42電気卒)

昭和四十二年に卒業し、会津若松の事業所に通務できると思っていたら入社一週間前に東京田端の事業所へ入社するように指示された。あれから四十年が過ぎ去った。

同窓会、最初に知ったのは卒業前にいただいた同窓会名簿だった。どのような活動をしているかは知るよしもなかった。東京では電気科卒業一年先輩の佐藤さんが同事業所内におり、いろんなことでお世話になった。これが同窓会というありがたさなのだと今思う。東京へ出てきて同窓会との関わりは、平成元年だったと思うが、同窓会名簿に登録しないかという案内が届いた時からだ。それから数年がたち、平成五年に同級生から同窓会をやっているからと言ってみないかと誘われていったのが東京工工会総会でした。その後はいろんな活動に参加するようになりました。電気科卒業の先輩も大勢おられ、いろいろなことを教えていただきました。

すごいなあと思つたのは、先輩方の多くに、起業し社長として頑張つておられる方、世界で、芸能界で等々活躍されている方が大勢おられる事です。これも同窓会活動に参加しなければ知ることが出来なかつたのではと感じています。平成八年からは東京会士会の幹事として同窓会活動が続けています。行部に入つて初めて会運営の苦労が分かりました。活動するには多くの参加者を集めなければ運営費が捻出できないのです。現在は年会費をいただいておりますが、目標未達成なのです。

登録会員増を図るため、平成十三年には関東圏在住三千百人のタマヘ家状を発送したこともありましたが、結果は散々でした。会員登録・拒否・不明・それぞれ一割。返事なしが七割、これにはショックでした。登録拒否でも返事が欲しかった。

東京会工会会員は、現在四百八十程。高齢化が進み活動に参加できない方が多くなってきたのです。若年層の勧誘が必要なのです。年は携帯電話・インターネット等情報入手が容易になり、故郷の情報はいっ瞬ででも知ることができる。さらに追い打ちをかけたのが、「個人情報保護法」でしょう。法内容から見ると、過敏すぎるのではと思いますが、名簿を悪用する者が居る限りやむを得ないでしょう。いかに同窓会を知っていたか。待たないで進歩はないでしょう。東京会工会では母校の同窓会入会式で存在をPRしていますが、いつ花が開くか不明状態です。

これからは情報社会にあつたPRをと思っています。東京会工会ホームページを作り母校のホームページにリンクさせていたなど等の検討をと考えていなければならぬでしょう。執行部の励みは、新しい試みも取り入れていかねます。案内が届いたら是非返信をお願いしたいものです。

感性を高めて

株 式 会 社 白 井 設 計 代 表 取 締 役

白井 武男

(昭45建築卒)



さて、云津工業高校の在校生の諸君は、自らの夢を実現する為に本校の専門科に入学したのであると思う。プロ（ものづくり）の仕事を目指す諸君は、仕事を好きになる事です、生涯より続けても、まだ余り有る程に好きに成つた方良いのです。それには学校で学んだ事を基礎とし、例えば、小遣いのワンコインで専門誌を購読するとか、建築インテリア科の生徒であれば、ゲームの合間にインターネットで世界の建築・世界の建築家の作品を毎日30分検索してみるとか、ジャンルにこだわる事無く色々な建築を見てみて下さい。感性が高い学生である。『今』、専門の規制観念にこだわる必要の無い学生である。『今』だからこそ、色々なものを見る事で、益々感性を高めて下さい。

「2010年」

宇都宮文星芸術大学非常勤講師

佐々木 博輝

(平2イン卒)

高校を卒業して20年が過ぎ、人との出逢いや環境に恵まれたお陰か、今は栃木の大学で非常勤講師として美術教育に携わっている。又、自らの作品コンテストも時代を映すものであるから、おのずと変化してきた。今は長年住んだ東京を離れ、秋田県の白神山地麓の町へ移った。

同窓会の皆様「同窓会会報・2010」編集
大変ご苦勞様です。心より感謝いたします。
現在の様に、求める情報が簡単に手に入る事が出来なかつた60年代、テレビの普及により、田舎町の我々にも情報が届くようになった。内藤多仲設計の東京タワー・丹下健三設計の東京オリピック会場代々木国立競技場・岡本太郎の大阪万国博覧会の太陽の塔等の建築が、テレビの画像で見る事が出来る様になった。生涯の仕事として建築を志したいとの思いはこの頃芽生えたものである。当時実際に見学する唯一の機会であった中・高校の就学旅行で現場に立ち、益々その思いは膨らんでいった。会津工業高校の建築科の学友らと3年間建築を楽しく学んだ事も大きく影響していると思う。

昭和45年春卒業し、働きながら大学に通う事としたが、事故に遭い中途退学を余儀なくされた。当時としては、働きながら大学に通う学生も多く、中途の退学はそれほど苦にはなかつた。その後27歳で設計事務所を開設し現在に至つてゐる。決して、順風萬里で過ごせた訳ではなく、社会環境の変化による困難な諸問題は常に起きてゐる。「好きな仕事」をしているせいか、あまり苦に成らず楽しく乗り切つて来ている。

技術的な豊かさと弊害

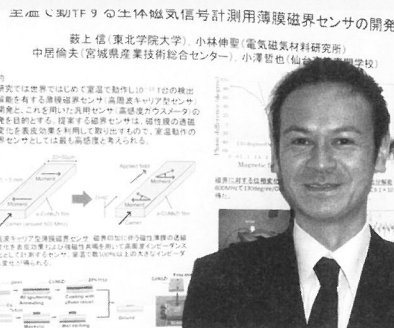
准教授工学博士

小澤 哲也

(H³電子卒)

何かと世間の話題になる「理科離れ」は深刻であり、特に電気工学は人気がありません。10代若者の対象とした「電気工学に何故興味がないのか？」というアンケート結果を拝見したところ、第一位は「暗いイメージ」でありました。照明は電気工学で動作するものだから「暗い」というイメージはないはずですが・・・これは冗談として、技術立国日本の電気工学には明るいイメージがないことがわかりました。第二位は「電気は、どこで使われているかわからないから興味が無い」という驚くべき回答でした。身の回りには電気製品がたくさんありますが、技術的に豊かな環境で育ってきた

ために「携帯電話」「便利な道具」という感覚の
 ようです。第三位は「難しそうなので興味がな
 い」でした。これも技術的に豊かな時代に生ま
 れてきた弊害でしょうか。私が高校生とときま
 は、テレビの色合いが狂ったときに内部を開け
 てカラー調整の半固定抵抗器を発見し、調整し
 て修理したものでした。「難しそうなので挑戦
 しない」という最近の傾向は非常に強く、難し
 い課題を与えると「わからないから、やらな
 い」と白紙で回答されることがあります。今の
 世の中、ちよつとお金をお金を払えば、便利な
 ものを手軽に手に入るため、壊れたものを修
 理して使ってみようかなどを経験する機会が
 圧倒的に少なくなっているのかもしれない。ま
 た近年の電気製品の集積回路化が激しく、壊
 れたとしても集積回路内部の配線を修理する
 ことは不可能であり、壊れた回路を修理する
 機会が



劍道五等 赤羽 恒夫

(昭20窯業卒)

日支變から大東亜戦争へと日増しに軍靴の響きが高まりつつある昭和十六年春、学年帽室が廃止され、戦斗帽姿が常津工業学校寮理科入塾する。一、二年生の頃は正規授業で一般教養を基礎的学間で毎日五時限終了のペルを台図に教室を出て部活動が始まる平穩な單純な時代でも

つた。三年生より専門科目が加わり戦局は厳しく変化し、先ず敵に国語としての英語、英文法が廃止され、軍事教練の時間が増え強化される。又新しく武道が正規な授業として加えられ、生徒全員が柔道が剣道を選択して授業実技を受けることになる。

剣道部は歴史も古く城下町として人気があり部員も多く旧講堂を稽古場として使用していた。更衣室は道具置き場を兼ねて教室と平行した古びた小さな板戸の小屋で、共用の胴や垂れた各個人所帯の稽古着や袴(はかま)それに面簪手(めんこて)等布袋に入れ通路両側に吊る竹刀は各教室の隅に立てられていた。これらの道具は日曜日を除き毎日使用するもので人による汗や臭い籠手の皮の香りが合わり、例え様のない悪臭を発生する。道具の洗濯は無理で精々週一回稽古着や手ぬぐいを持ち帰り親に洗ってもらう程度である。広いグラウンドから吹く風の方角によつては授業中の教室や廊下にも悪臭が広がる。毎日の稽古中は汗の発生が多く、お面を外す事や手で顔をふく事も出来ず目に流れ落ちる汗を防ぐため顔を左右に振りながらの自己防衛である。時には屋外で思う存分汗を流したいものである。



芋煮会 東京会工会 荒井会長と応援歌を

生である。一旦剣道着姿になれば、急に人間が変った様に厳しく、お面の奥に光る目の輝き、全体的諸動作、竹刀を正眼に構えた恐ろしさ、腕力の強さ、稽古中でも我々の竹刀を床に落とされて立ち打ちも出来ない

い剣道師範である。一般に黒帯と言えは柔道の有段者、剣道では黒色の胴を付けている人が有段者を意味する。皆んなの憧れの的であったが、学校保管共用の道具として、主に五年生が使用して段を取っても最後まで着用した記憶がない。

剣道五等とは旧段階の名称が変わったもので何時変更になったのかも知らない。武徳会より学校側に届けられた免許書で始めて知る。剣道昇段試験は年一回鶴ヶ城武徳殿で行われ、全会津地区各中等学校の希望者が集まり対戦する。午前中は審査員の前で稽古試合を約十分間ずつ何回か行い、午後は木刀に変え、型を始めるが相手が気心知れない他校の生徒で呼吸を合わせるのが難しい。攻めの型、守りの方を交互に行うが相手に合わせるのが骨である。日頃練習の合間に学校で行っているが本番では緊張もあり手元が振る。

有段者になれば竹刀の長さが三尺八寸と今より二寸長い竹刀となり、剣道の業(わざ)も「突きや横面が有効」と認められる。長短二刀流は二段以上の受験課題らしい。初めて手にする剣道五等免許書の任命権者に武徳会長で当時の総理大臣小磯国昭氏の名前に驚く、一生忘れ難い出来事であった。戦後A級戦争犯罪者として処刑され複雑な思い出となった。

私の教師生活の宝

元・窯業科担任 古川 静雄

(昭和48〜60窯業科担任) 私の教師への出発は、たよりない「でもしか教師」である。教師になりたくなかったのは、なく、夢・野望に破れ、研究の副作用による奇病に苦しみ(急性水俣病)、心のよりどころがほしくて、郷里で教師でもやるかと云うことで会津に戻り、「田舎教師」になったのです。だから、教師になりたての頃は、自分自身の教師像もないし理科の教師としての夢もブライドもなかった。

そのために、頼まれれば「がむしゃら」になんでも教えた。専門の理科・化学以外に数学、

工業科目、社会、保健、専門医学、理科の物理・地学等六教科二十科目になります。今振り返るとよくまあ「ずうずうしく」授業をやったものだ、自分ながら感心するだけである。それぞれの専門の先生方はその姿をどのようの姿に止めていたのかと、ただただ当時の自分の姿に呆れるだけである。(しかし、多くの教科目の勉強をしたことが、後の化学・生物の授業や進路相談の中で、様々な事例として話をするための知識となりました)

そのような教師生活の中で、生徒達から「だめ教師」のレッテルを貼られなかったのは、どのような教科目の授業をしたか、先生の授業はわからないと言われるのがいやなので、前日には必ず「授業の下調べ」をして授業に臨んだことと、生徒が好きであったからだと思っていいる。長年の教師生活を振り返ると、結果的に教師と云う職業が私に「あつていた」と云うことであろか。教師がいやになつたり、教師を辞めたいという自分一度もなかったのですから・・・自分自身を飾らないうえ、私の地のままで生徒と接することができた結果と思っていいます。ところで、退職して教師生活を振り返ると、私には大切な三つの宝があることに気付きました。

一つは、温かい温かいすばらしい大勢の生徒達に恵まれたことである。(教科を指導した生徒数は、実人数で五千六百余名になりました)

初任から十八年連続担任を持ち、それぞれの学級では自ら「ガキ大将・親分」になり、個々の生徒達との出会いを大切にしたこと。全ての生徒と平等に接したこと。卒業後も親交をつづけてきたこともありますが、高校時代は大変手間のかつた連中も卒業後社会生活の中で順調に成長して人間にとて最も大切なものを身につけた大人になりました。

退職して教えた子たちからは「卒業して三十年になり同級会を計画します」「卒業二十五周年と古川先生の定年退職をお祝いして同級会を開きます」「永い間ご苦労さまでした。これから眼をみつけ同級生の家に遊びに出かけて下さい。みんなには連絡しておきました」など様々な励ましの言葉が寄せられました。これからは、連中にお世話になつて過ごすようになるのかと、有り難く思っています。その中には、親

子共々教えた連中も数多くいます。二つ目は、すばらしい同僚の先生に恵まれ、何かにつけて助けられた教師生活であったことです。

教師生活の中でいろいろな事務局を担当いたしました。会津地区高等学校生活指導協議会事務局、会津地区中・高保護委員会事務局(喜多方商業高校)、会津地区高等学校進路指導協議会事務局、創立九十周年記念事業実行委員会事務局(会津農林高等学校)、同じに創立九十周年記念事業実行委員会事務局(若松商業高等学校)、他にも様々な事務局を経験しましたが、それぞれの事務局では、実行力のある若い先生方の手助けを頂き、忙しい仕事も楽しく乗り切ることができました。さらに、長い担任生活の中でいろいろな先生方の協力と手助けを頂き、一つ一つの問題を解決しながら乗り切ることができたことに感謝してあります。(特に、私が受けたクラスは、問題行動が際だつて多かった等での痛切に感じました。それぞれの学校や会議等で知り合った先生とは、お互いの「出会い」を大切にしてすすんできたように思われます。現在もいろいろな機会に連絡を取り、助け合つております。長年に渡るやさしさには本当に有り難く思っています。

三つ目は、教師生活の中で生徒達と張り合えながら様々な資格・免許の取得ができたことです。

生徒達と最初に取得した資格は「アマチュア無線免許」でした。その後「電検三種」「二級ボイラー取扱主任者免許」「ガス溶接」「計算尺検定二級」「防火管理者・甲種」など。教師になる以前には「危険物取扱主任者免許・甲種」「衛生検査技士免許」「自動車免許・普通車・大型自動車」「教員免許・高1理科・中1理科・高2保健・中2社会」などいろいろな資格免許取得に挑戦し免許を取得しました。その中で、教師が不合格になると、生徒からの信頼がなくなるので、本気で努力したことが思い出されます。このように生徒達と真剣に資格取得に挑戦したことが、生徒達から信頼されるものになったのではないかと考えます。つれづれになるまに文章を書きましたが、これからのような体験の思い出が頭に浮かんでくるでしょうか・・・

平成二十一年度卒業生の松江賞・同窓会賞の受賞者から返事をいただくことができました。全員ではありませんでしたが、ご紹介いたします。ただただご紹介は、氏名と写真の紹介のみとさせていただきます。

松江賞



セラミック科 石田 愛里



機械科一組 赤井 俊介



機械科二組 渡部 啓貴



化学工学科 佐藤 夏来

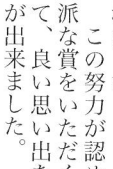
松江賞を受賞することが出来、大変嬉しく思います。三年間を振り返ると、辛かったことを忘れてしまふくらい、楽しかった思い出いっぱいあります。授業と部活動の両立は大変でしたが、多くの先生方や友人に支えられ乗り越えられたことが出来ました。その感謝の気持ちを忘れず、会津工業高校で学んだ多くのことを松江賞をいただいた事を誇りに、社会に貢献できるよう励んでいきたいと思っております。三年間本当にありがとうございました。

私は三年間、皆勤賞はもらえなかった。一番はテストで力を発揮できなかった。高校から専門教科も加わり、いろいろな結果もよく取ることがたくさん増えましたが、その分家庭学習の時間も減り、順位が下がった。結果として良い順位が出た時はうれしさを一杯でした。今回、松江賞を受賞させていただき、これからの努力を忘れないで、この賞にふさわしい人物になれるよう頑張りたいと思います。ありがとうございます。



電気科 鈴木 清高

高校三年間を振り返ると、入学してすぐに取り組んだ資格取得。暑い中、毎日練習したのづくりコンテスト。最後の化学工学科としての文化祭。数え切れないほどの思い出があります。この三年間、私は友達や先生方、家族とたくさんの人を支えられてきました。今回、松江賞を受賞できたのも支えてくれたたくさんの方のおかげだと思っております。三年間、本当にありがとうございました。



情報技術科 金成 啓太

私は今回、松江賞を受賞することが出来、三年間努力してきたことが認められ大変嬉しく思います。入学当初より文武両道を目指しており、いろいろな方々の支えがなければ挫折して



建築インテリア科 木村 博史



セラミック科 渡部 里花



化学工学科 渡邊 礼

同窓会賞



機械科一組 江川 貴



機械科二組 星 秀輔



電気科 石崎 拓海

今回、このような名誉ある賞をいただくことができ、大変嬉しく思っています。私がこの賞をいただくことができたのも、友人や先生方の支えがあったからです。この賞を誇りに思い、これからも頑張っていきたいと思っております。担任の大河原先生をはじめ、高

私は、この三年間の中で部活動の野球を自分なりに一生懸命やってきました。その結果、同窓会賞というたいへん名誉ある賞をいただきました。うにありがとうございました。一生懸命取り組めた結果や、多くの先生方のおかげも、この賞をいただけた理由だと思います。就職してから、この賞を誇りに頑張っていきたいと思っております。

私がなぜ同窓会賞という立派な賞をいただけたのか不思議です。ですがこのように賞をいただくことができました。資格取得などをあきらめずに続けてきたからなのだと思います。



建築インテリア科 松本 紗苗



情報技術科 井上 暁登

今回、同窓会賞を受賞することができた事を大変嬉しく思います。同窓会賞を受賞するに値するときはとても驚きました。高校三年間の成果をこのように形に認められ、有終の美を飾ることができて本当に良かったです。私はこの会津工業でたくさん学ばせていただき、部活動に励んでいました。共に笑い、泣き、時にぶつかり合った仲間と過ごした時間は私の大切な宝物です。いつも熱心にご指導してくださった先生方にも、大変感謝しております。この賞を受賞できたのも、今までお世話になった、部活動顧問の田中先生、担任の康生先生、授業をしていただいた先生方のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。

「松江賞」「同窓会賞」受賞!!

「ものづくり教育の 取り組み」

教頭 山野 敏 (昭49G卒)



平成21年度末の人事異動により、4月から本校に勤務となりました。何とぞよろしくお願い申し上げます。手代木利夫様をはじめとする同窓会の皆様には、日頃から本校に何かとご協力をいただき感謝申し上げます。教頭という立場ですが、私も本校の卒業生ですので、微力ながら、諸先輩方ならびに職員共々、本校の発展に尽力する所存です。

ところで、機械科や建築インテリア科、電気科などへ、新規の教育教材等の配置がなされ、教育環境が整備されつつあります。ものづくり教育の具体的な取り組みとしては、会工祭での体験コーナー、ものづくり学園祭・セミコンジャパンへの出展、県下高校生ものづくりコンテストへの参加と優勝や上位入賞、会津ものづくり人材育成事業の発表会などが行われております。学校内だけでなく、これらを通じ外部とも連携することにより、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る事が出来ました。

また、部活動も盛んな本校ですが、全国大会へ出場を果たしている部もあり、吹奏楽部等の文化部も活動が盛んであります。部活動もコミュニケーションの向上を図るという点では、有効な手段と考えます。

ところで、一昨年のリーマンショックにより、昨年度の求人数は前年度の約7割でした。特に、県外企業からの求人数が激減しました。この様な状況下でも、高度資格取得者やコミュニケーション能力を持った生徒の進路は、引く手あまたの状況でした。

景気に左右されずに、生徒の進路を実現させるためには、企業が求める高校生の資質を把握し、学校教育に生かして育てることが、重要であると考えられます。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

進路指導部から

主任 大塚 正幸



全国の会工同窓生の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと存じます。また、本校の教育活動に日頃よりご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、昨年度の進路状況としては276名の卒業生の内、50%弱が就職(このうち県内・県外がほぼ半数ずつ)、50%強が進学(このうち大学・専門学校がほぼ半数ずつ)という、進学者の方が若干多いという結果になりました。就職については、求人数が平成20年度の1296社から705社と46%減少し、1社あたりの求人数も例年より少なくなりました。それでも他の会津地区の高校に比べれば恵まれている求人数です。さらに、このような状況にあっても多くの同窓生の皆様が



平成22年度進路指導部職員

The Present Conditon

平成二十二年度入学生

1学年主任 田中公雄

去る四月八日に、六クラス二百三十九名の平成二十二年度入学生が羽二生校長先生より入学を許可されました。それから早四ヶ月、一学期を終え学年としても各クラスがそれぞれの個性を見せ始めています。

この四ヶ月間を振り返ると、入学当初はまだまだぎこちなく、中学生のような生徒たちも随分と高校生らしく、会工生らしくなってきたようです。各自とも勉強や部活動、資格取得に向けてそれぞれの目標を持ち日々取り組んでいるようです。中にはまだ自分の目標が決まらずに、どちらに行けば良いのか迷っている生徒もいるようですが、近いうちに自分の進む方向を見つけてくれることと思います。

高校生活三年といわれますが、二年後の今の時期には、各自が自分の進路先に向けて見学会などに参加している時期となるわけです。残り二年間をどう過ごすかは大変重要であることを認識して過ごしてくれることと思います。もちろん、それに向けて六名の担任を中心に、学校全体で生徒たちをバックアップしてまいります。生徒たちが自分の将来を考え、それに見合った進路を実現できることが学校の願いであること、目標であることは言うまでもないことです。

世間の声は決して明るく楽しいことばかりではありません。最近では逆に、悲しいことのほうが多い世の中となつてしまいました。生徒たちにはそのような上辺だけの情報に流されることなく、本質を見抜く目と判断力をつけ、この厳しい時代を生き抜く力を身に付けてもらいたいと思います。教育してまいります。

四月に入学した二百三十九名が充実した高校生活を送り二年後には自分の進路希望を実現し、平成二十五年度の三月一日には、晴れやかな気持ちで本校を卒業していけるよう精いっぱい教育してまいります。

次年度へ向けて

2学年主任 石崎 晃

昨今のニュースでは、世界同時不況以降、日本経済がだいぶ回復してきたとの報道がされています。会津地域のある企業も、休日もなく忙しくなったとの話も聞かえてきます。しかし、七月一日より解禁となった本校の求人票受付数は、昨年度以上に冷え込んでいるようです。より厳しい受験になりそうです。来年も同様であろうと、進路では予測しています。

さて、二学年の生徒達の状況はと申しますと、不況の風も何処へやら、部活動に、資格取得に、伸び伸びと生活しております。まだ、目標が定まらず、集中できずにいる者も少なからず居ります。高校生活の折り返しとなった今、ひと頑張りできるよう、就職基礎ドリルなどを実施し進路に向け実力を付けるよう頑張らせています。この夏休みには会津地区の企業を中心に十四名の生徒

就職難の時代の就職

3学年主任 清水裕二

2年前のリーマンショックによって世界中の景気は停滞しました。日本もその影響を受け雇用状況も悪化の一途をたどりました。それまで順調だった高校生の求人も激減しました。企業は、生き残りをかけて大幅な経営の改革を断行し、非正規社員のみならず正規社員までがリストラになり、日本の経済は閉塞していきました。

このような状況の中、就職希望者全員を就職させるためにはどうすればよいかを考えてこの2年間を指導してきました。

そこで現3学年は、まず身だしなみの改善を図りました。正直、会津工業高校生の服装・頭髪は芳しいものではないかもしれません。それを生徒の幼稚な感覚でなく、大人、言いかえれば企業の人事の人が見て高校生らしい姿にする指導を行いました。なぜ、校則を守らなければなら

各企業が活躍されているという実績と本校の教育活動にご理解をいただいている各企業より、ぜひ工業高校生を採用したいという要望があり、実際に1月以降でも内定を戴いた企業もありました。また、最近ある県外企業の方から伺った話で、全国から生徒が集まる企業内で本校生の「ものづくり」に対する姿勢がとてもしっかりしていると聞き、「ものづくり教育」を推進している本校としては、とてもうれしく、これからのより一層努力していきたいと感じております。

進学については、4年生大学進学者が例年よりも増え、受験勉強に十分励んで希望する難しい大学に合格した生徒もいます。また、大学・専門学校進学者の多くは、工業系の学部に進んでいます。工業高校で学んだスキルを向上させ、専門性を活かした企業への就職を考えているようです。

最後に、今年度も生徒全員の希望進路の実現に向けて全教職員が一丸となって取り組んでいきたいと思っております。今後とも会工同窓生の皆様の変なめご支援の程、よろしくお願い致します。

(22・5)

表1 平成21年度学科別進路状況 ()内は女子内数

学 科	建築 けんちく	セラ ミック	化学 くわがく	機 械	電 気	情報 じほう	小 計	合 計
卒業生数	40	39	40	79	40	38	276	276
就 職	県内企業	8	13	8	18	8	57	120
	県外企業	6	11	6	20	15	63	
	公務員	0	0	1	1	0	2	
	自営・縁故	2	0	0	3	0	6	
就職合計	16	24	15	42	23	8	128	128
進 学	大学	9	6	12	12	7	64	69
	短大	1	1	2	0	0	5	
	公共職業訓練校等	5	0	2	4	2	13	
	専門学校	9	8	9	21	8	66	
進学合計	24	15	25	37	17	30	148	148
家事手伝い・他	0	0	0	0	0	0	0	0

達が長期のインターンシップを経験します。現場の実践を通して、コミュニケーション能力や就労の重要性などを体験学習することを期待しています。八月には、地元企業の技術者による品質管理(QC)検定三・四級の講習が開かれ、多くの生徒がチャレンジします。

また、二学年の恒例行事である修学旅行は、九月二日から三泊四日間で、広島・大阪方面へ行きます。初日は、負の世界遺産の原爆ドームで平和学習をし、二日目には、早朝に日本三景のひとつ安芸の宮島見学や平成の大改修中の姫路城内部構造を見学します。三日目は、班毎に大阪市内自主研修などを計画しています。現在、その準備に追われています。

就職や進学の参戦まであと一年となりました。二学年として、中堅の意識と自己理解・現状把握を高めながら、三学年へ良い形で進級できるよう頑張らせたいと思います。最後に、日本各地で活躍の同窓生の皆様におかれましては、現職場で、会工の若い力を採用いただけますよう、ご尽力をお願い申し上げます。

らないかを言い続けながら生徒たちに負けないでしっかりと指導をしました。生徒指導部や同窓会、PTAの協力もあり、少しずつ改善されてきました。次に勉強する姿勢を身に付けさせるということです。授業をしつかり受けることを基本に、学校主催の漢字テスト・実力テストなどもしっかりと取り組み、学年独自の取り組みである就職用のドリルを使って朝自習や放課後の30分を自主勉強させるなどを実施しました。その結果、勉強する姿勢が定着してきました。さらに、部活動の励行です。企業は、「明るく元気でコミュニケーションができる生徒」を望んでいます。部活動を通じて人間関係の大切さを学ばせることをねらいました。

つまり、高校生活のそれぞれの分野で精一杯活動させることこそが、この求人難に立ち向かうための最善の方策だと考えたわけです。担任6人が、この指導方針の下、足並みを揃えて取り組んでいます。それでも今年は昨年度以上に厳しい求人状況です。同窓会の皆様もぜひ求人にご協力をお願いいたします。

平和の覇者を育みぬ。

校歌から

学び舎 ロケーション——1 専門課程は、いま。



建築インテリア科

主任 池上 邦彦

建設業界の状況は厳しく建築インテリア科の生徒たちの進路が昨年に引き続き心配な平成22年度となりました。そんな中で建築インテリア科では、社会に通用する人材の育成を目標に、日々教育活動を行っています。

昨年度末の人事異動では同窓生でもあった小原身知先生が福島工業へ転勤し、現在7名の教員でがんばっています。昨年度は3年に一度の会工



本造倉庫上棟後の記念撮影

祭ということで、日頃の学習の成果を皆様に感じていただく生徒たちもいるという場面が、面々がばつていっている。前日の仮装行列、製図展示、ミニイーゼルを作った木工体験、実習作品の販売、茶室展示など、おかげさまで同窓生や保護者、近隣の人々など、多くの方々にごらんいただき感謝しております。生徒たちも、クラスのつながりがより強くなりました。

その他、昨年度の生徒たちの活躍を挙げてみます。

日本大学建築設計競技
日本工業大学建築設計競技
福島県高校生ものづくりコンテスト5位等々です。

進路の面では一昨年度よりも地元に残る生徒が増え、地域の方々に貢献できているのではないかと考えています。今年度は昨年度にもまして厳しい状況ですが、100%の進路実現を目指して生徒たちががんばっているところです。

厳しい経済状況の昨今ですが、様々な面で諸先輩方のご協力よりしくお願いいたします。



セラミック化学科

主任 村田 光夫

●セラミック化学科

まずは、平成21年度末の人事異動により、11年間勤めていただいた佐藤正道先生（前主任）が郡山北工業高校に転勤となり、また、小野一夫先生が阿武隈養護に、さらに六澤節子先生が猪苗代養護に転勤となりました。そして、講師として勤めていただいた齋藤四志男先生が退職されました。替わって、郡山北工業高校から村山彰一先生が、会津養護より大濱達明先生が着任されました。

さて、セラミック化学という科名になつて今年で3年目。ようやく1年から3年まで各学年がそろいました。地域に密着し、貢献する学科を目指しています。

化学の知識をベースに伝統工芸から新素材の分野まで幅広く学習します。地場産業の焼きものの伝統技を受け継ぎながら、フライングセラミックス・ガラス・化学製品全般の知識や技術を学びます。具体的には、茶碗、電子部品、人

工宝石、色ガラス、人工骨、リサイクル石けんなどを実際に作り、分析・評価する体験的な学習をしています。

●生徒たちの活躍

昨年度は、様々な場面で生徒たちの活躍が目立ちました。まず、ものづくり県大会では、化学分析部門において2年連続の優勝を果たしました。また、県発明展においては、二度焼き窯変天目の色見表を出品し最高賞である県知事賞をいただきました。このように、生徒たちは自分の持っている力を十二分に発揮して活躍しています。資格取得にも、積極的に挑戦する生徒が多く、危険物試験を始めQC（品質管理）検定など多くの資格に挑戦し、合格しています。

さらに、地域貢献活動では、会津美里町で毎年開催されているふれあい茶会や博物館主催のまちなか茶会などに参加して好評を得ております。また、喜多方の岩月町にある三津谷煉瓦窯再生プロジェクトに3年連続で参加して地元の地域活動活性化に貢献しています。

●今年度の予定

今年度すでに、各種お茶会は終了しました。夏休みには全国統一陶芸技能検定の実施、8月の第1日曜日に開催される会津本郷せと市には毎年参



加しています。10月末には、あいづドームで行われる会津ブランドものづくりフェアに今年度も全科で参加する予定です。同じく10月17日（日）には県立博物館友の会主催の文化祭に作品を展示したり、超伝導の実演をする予定です。また、9月より高大連携事業として会津大学短期大学部と共同で会津窯変天目茶碗の商品化を目指したブランド名「KAITEEN」を商標登録するための学習会を行う予定です。1月には、ろくろ技能検定が本校において行われる予定です。このように、たくさんの方の行事がこれからもあります。これからもOB諸先輩



機械科

主任 茂木 利幸

平成二十一年度末の人事異動により、平山賢実先生が退職なされました。また、数間一博先生が小高工業高校へ転勤なされました。岩橋学先生は勿来工業高校へ、小林孝浩先生が堀工業高校へ、高橋豊先生が大生養護学校へ、それぞれ転勤なされました。替わって、猪苗代養護学校から佐藤文康先生、新採用教員として益山心先生、菊田高史先生が加わりました。平山賢実先生がおかれましては、常勤講師として引き続きご尽力をお願いすることになりました。そして、喜多方工業高校から本校機械科主任の重任を仰せつかりました。私こと茂木利幸が加わりました。何とぞよろしくお願い申し上げます。



電気科

主任 海和 寛

指導にあたっては、三年生の進路状況については、一昨年度の金融危機を発生端とした不景気が影を落とし、きびしい求人傾向にあります。それでも諸先輩方や進路指導担当の先生方等のご尽力により、機械科は100%内定することが出来ました。

求人件はひとまず置いて、この一年間機械科の生徒諸君は「ものづくり」の分野においても大活躍致しました。その素晴らしい健闘の一部を紹介致します。

（平成二十一年度分以降）

○福島県高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門、準優勝。東北大会出場。

○福島県高校生ロボット競技大会に二台出場。

○ETロボコン2009北海道・東北地区大会に出場。

○全国電動カイト創作コンテストに二台出場。耐久レース賞に入賞。

○ホンダエコノパワー燃費競技全国大会に二台出場。

○マイコンカーラリー県大会に二台参加。

○セミコンジャパン2009に出展。

○ワールド・エコノ・ムーブ電気自動車二時間耐久レースに、燃料電池部門・鉛蓄電池部門へ出場。

いずれの大会においても、機械科の生徒たちは熱心にもものづくりに取り組み、素晴らしい成績を残しております。これからも生徒たちが、ものづくりを通して研鑽を積み、職員一丸となって指導していきます。

春の人事異動により、嶋田徳栄先生が喜多方桐桜高校へ転勤されました。後任として、小高工業高校から櫛田古瀬先生が加わり、電気科教員は六名です。また、電気科ホームルームに関わる普通教科教員は、三年担任清水裕二先生（社会科）、一年担任江本城幸先生（体育科）です。

昨年の主な内容は次のとおりです。

1 就職二十三名・進学十七名

○就職は、電力会社へ就職する人が増えていました。また、工業電気系企業への就職が充実しています。進学では、四年制大学七名、電気系県立専門校二名、医療系専門校五名など、例年になく進学者が多い年でした。

2 発電所見学・工場見学

○東北電力東新潟火力発電所・第二沼沢発電所

○北芝電機（福島市）・日本工営（須賀川市）

3 外部講師

①東北電力会津若松支社「発電所見学事前学習」

②東京電力猪苗代電力所「送電設備の維持管理」

③日本大学工学部尾股定夫教授「医療工学」

4 ものづくり・大会等への取り組み

①「幼稚園で発電パネルを使った電気教室」東北電力株式会社会津若松支社との連携

②会津若松市少年少女発明クラブ「ロボット製作」

③福島県高等学校ロボット競技大会

④ものづくり学園祭「電子工作」

⑤マイコンカーラリー福島県大会

⑥福島県高等学校ものづくりコンテスト「電気工事部門」

⑦セミコンジャパン出品「照明付ドライバ」

⑧課題研究の授業「空気圧機器の取扱い」株式会社コガネイとの連携

最後に、第二種電気工事士二十七名合格、第一種電気工事士七名合格、第三種電気主任技術者一科目二名合格など、資格取得にも熱心に取り組んでいます。また、昨年に続き、三級技能検定電気機器組立て七名合格など、意欲的に活動しています。



①「幼稚園で発電パネルを使った電気教室」東北電力株式会社会津若松支社との連携

②会津若松市少年少女発明クラブ「ロボット製作」

③福島県高等学校ロボット競技大会

④ものづくり学園祭「電子工作」

⑤マイコンカーラリー福島県大会

⑥福島県高等学校ものづくりコンテスト「電気工事部門」

⑦セミコンジャパン出品「照明付ドライバ」

⑧課題研究の授業「空気圧機器の取扱い」株式会社コガネイとの連携

最後に、第二種電気工事士二十七名合格、第一種電気工事士七名合格、第三種電気主任技術者一科目二名合格など、資格取得にも熱心に取り組んでいます。また、昨年に続き、三級技能検定電気機器組立て七名合格など、意欲的に活動しています。



情報技術科

主任 真田 郁夫

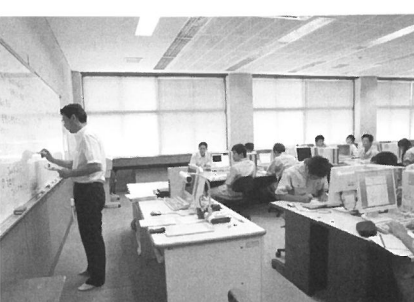
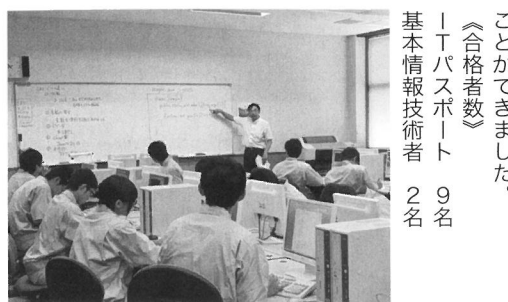
情報技術科では、組み込み技術や検定試験への取り組みを強化してまいりました。平成二十一年十月には、プログラミング実習室のコンピュータシステムも更新になり最新のコンピュータで授業が行える環境となりました。また、学習内容もアプリケーションソフトやツールソフト、プログラミングソフトの更新に伴い情報技術の学習に十分すぎるものとなりました。

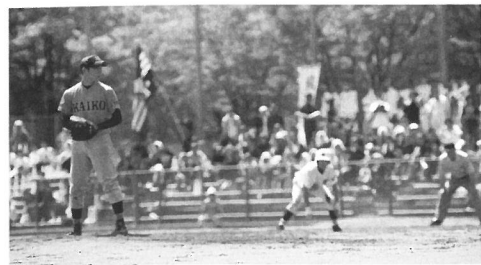
ジャパンマイコンカーラリー全国大会
四年連続出場

平成二十一年十一月、ジャパンマイコンカーラリー福島大会が清陵情報高校で開催され、アドバンス部門に3台、ベイスック部門に3台が出場しました。

当日、ステアリングモータの不良や制御基板の調子が悪くなるなどコンディションの悪い車体が続出する中、三年情報技術科の井上暁登君が予選・決勝トーナメントを無難に勝ち進み、本校情報技術科として四年連続となる全国大会への切符を手にすることができました。

地域連携への取り組み
平成二十一年度は、地域連





福島商業戦より



いわき光洋戦より

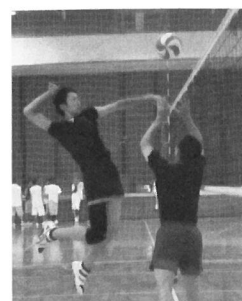


福島商業戦より



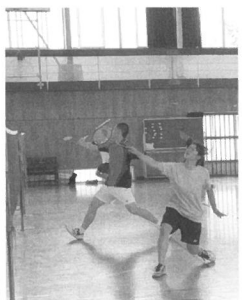
顧問 ◎ 鈴木 慎也
菊田 高史

バスケットボール部



顧問 ◎ 今川 吉晃
村中 輝 徹

バレーボール部



顧問 ◎ 今野 信孝
熊谷 好広

バドミントン部



顧問 ◎ 清水 裕二
村田 光夫

空手部

野球部

顧問 ◎ 八巻 勤
小田切 史也
安藤 洋平

学び舎 ロケーション ②

2010会工、鍛えの各部

奮るえや会工の健男児 応援歌から

先日の高校野球福島県大会におきましては、暑い日にもかかわらず、ご卒業のOB皆様をはじめ、保護者の方々、先生方、生徒の皆さんからの真心の応援をしてくださいます。ありがとうございます。心より御礼申し上げます。準々決勝、聖光学院に5対1で敗れましたが、はつらつとした表情で試合に臨んでいました。来年の大会へ向け早速練習を開始しております。

す。今後何かとお世話になります。指しておりますので、何とぞご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

校舎案内



機械科・旋盤実習棟



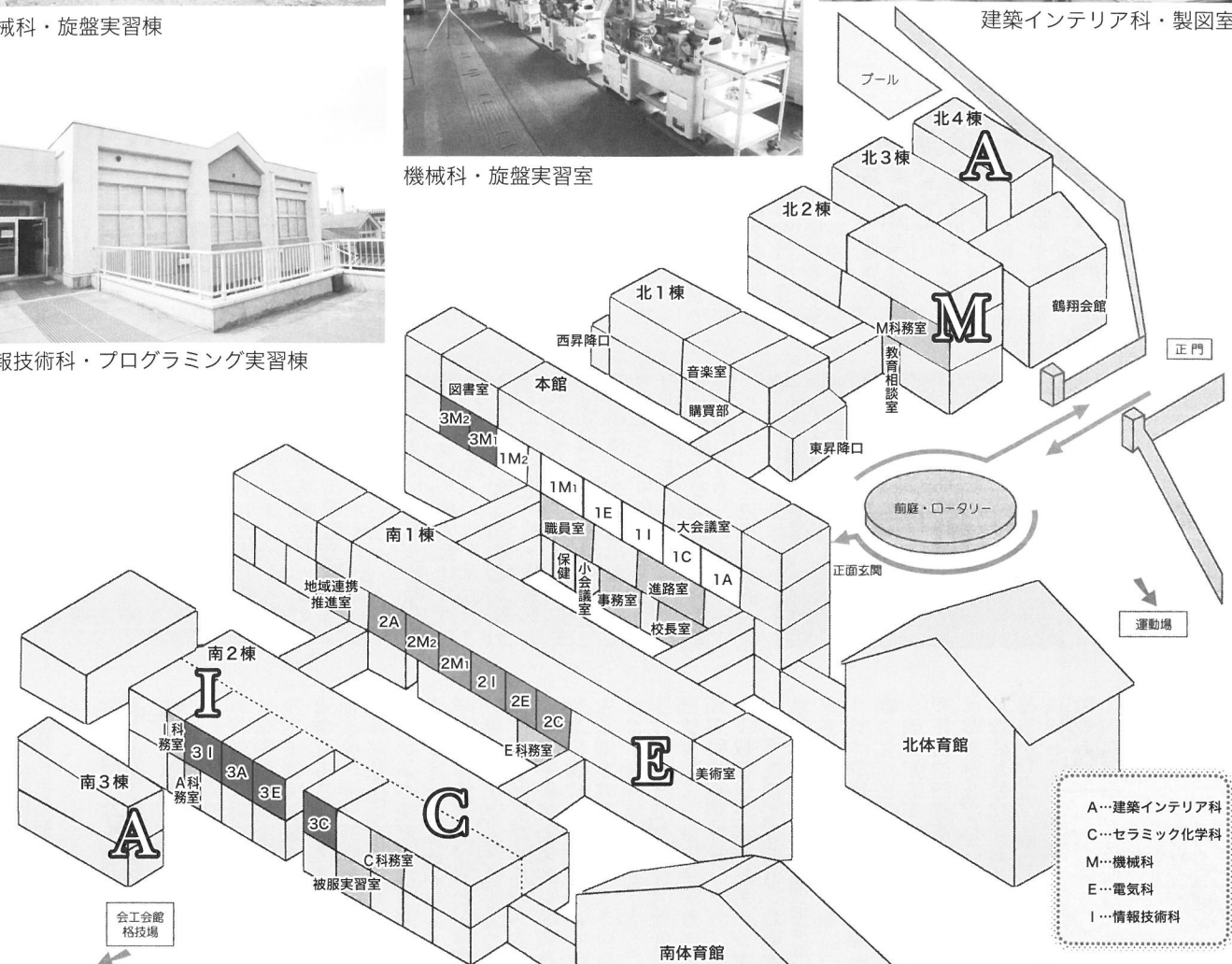
情報技術科・プログラミング実習棟



機械科・旋盤実習室



建築インテリア科・製図室



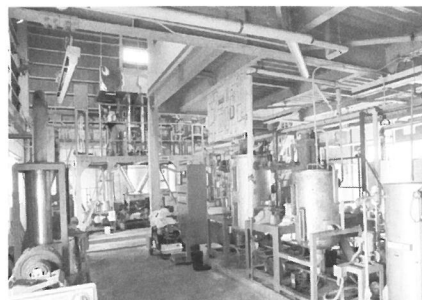
情報技術科・プログラミング室



セラミック化学科・操作実習室



電気科・実習室



セラミック化学科・石けんプラント実習室



建築インテリア科・木工室



電気科・実習棟

同窓会会報2009に対する協力金募金者御芳名（敬称略）

[illegible]

山 黒 芦 鈴 佐 吉 小 渡 渡 渡 渡 山 本 村 松 本 保 古 古 八 芳 根 東 丹 谷 白 佐 齋 小 小 小 郡 熊 久 北 河 川 小 榎 上 稲 石 猪 穴 秋 赤 青 青
口 沼 川 沢 木 藤 村 林 部 辺 部 部 部 本 吉 越 井 田 志 畑 河 卷 賢 本 條 治 内 岩 山 藤 森 林 関 司 田 家 原 戸 瀬 島 本 野 田 山 狩 澤 山 城 津 井
邦 榮 正 雅 美 貞 夕 保 和 一 憲 茂 陽 元 孝 邦 重 五 榮 正 良 克 正 利 喜 岩 盛 信 次 明 敏 良
誠 健 尚 男 喜 盛 淳 夫 宏 亮 昭 美 子 夫 三 寿 穀 吉 男 治 雄 一 健 作 憲 安 豊 一 男 幸 良 修 助 孝 治 士 三 家 勲 一 雄 久 夫 一 夫 廣 男 一 直 勝

[illegible]

大 棚 田 山 小 石 樋 戸 斉 鈴 秋 片 宮 吉 七 阿 保 唐 鶴 山 角 影 大 本 田 岩 寺 二 吉 関 猪 松 鈴 中 渡 吉 村 邊 加 荒 越 相 國 淺 長 谷 平 江 蓮 小 荒
堀 木 中 下 菅 橋 口 田 藤 木 山 桐 野 川 海 部 志 橋 川 田 田 山 村 多 崎 測 崎 瓶 田 根 保 本 木 島 部 田 岡 藤 藤 川 川 馬 沼 沼 川 川 沼 山 木
隆 敬 嘉 英 光 節 一 輝 常 進 義 龜 代 昭 弘 平 四 郎 文 五 富 孝 忠 信 祐 勇 和 法 喜 秀 健 輝 素 昭 耕 英 美 信 辰 靖
雄 介 久 淳 之 博 好 男 男 男 雄 一 弘 昭 次 隆 一 美 郎 登 男 郎 繁 篤 文 保 子 治 弘 通 貞 滿 忠 男 熱 喜 弘 雄 勉 大 一 司 幸 治 充 尊 卓 行 夫

[illegible]

坂佐	國岸	山古	小渡	佐村	鈴島	石中	室鈴	生安	鈴遠	渡宮	二麻	板兼	萬田	高吉	渡神	井目	星加	加石	石渡	岩岩	五十	五十	白星	斎星	鈴加
内々	藤井	本川	池部	藤上	木影	井島	井木	沼積	木藤	部崎	瓶生	橋子	澤川	羽田	部田	上黒	藤藤	井部	澤橋	五十	五十	白星	斎星	鈴加	
茂	貞宗	次征	文敬	芳利	孝久	博正	利藤	忠幸	弘憲	欣和	與芳	一節	忠洋	一は	義実	則良	すみ	儀健	敏悅						
男賢	司義	男男	一雄	守之	謙雄	敬夫	範男	圀正	吾三	博稔	男道	登一	三禮	咲満	榮志	文泉	はるみ	喜昇	一男	行策	勲充	典一	夫衛	男男	

[illegible]

若鈴笠小小渡小小加角太菊菊渡馬原渡渡箭大宮木古佐菊坂高佐岩山鈴遠長谷若二杉神渡辺鈴鈴荒渡成閑出加浅渡佐
 澤木間林滝部林林藤田田地藤部場邊部内浜腰村川木地内木藤沢田井藤川狹瓶原林部見木木井部田場羽藤沼部藤
 敏健主春彦義修源庄正悠洋祐理正三健達克洋義昭美哲博敏利憲進利春正俊芳輝正哲士貞正一重修定洋悅
 雄助計洋市上隆一喜作雄矢輝平花博剛次男明美一市夫春雄康剛喜廣一朗夫生人男宏夫夫秋雄郎衛明宏夫次雄于朗

[illegible]

大 大野笠菅物宗藤岡久安谷野佐佐片井会渡渡宗布佐大渡長鈴鈴齋今山松谷早白金笠二佐左鷺齊秋満日長吉山杉川
堀竹原間沼江像沢島保西沢原藤岡関田部部像家竹堀部長谷川木木藤井内田川山井子間藤藤雨浦藤山田向嶺田本田
文 章宗勇由文保正信 庄 善 政英忠健敬重順健雅幸 榮恒和秀信 三守龍靜和六 浩 政弘 榮勝文幸
豊夫浩浩生雄治一弘弘衛哉勝寿弘一讓信敏義治二男一彦之彦藤助雄夫雄郎賢夫孝郎夫男郎隆平勇巨光温治雄男雄

[illegible]

山安峯大渡伊石川斎佐安山木大小五十吉中須坂小田竹要小笠根石阿佐渡櫻小渡山秦長谷十鈴矢三片小松落高小穴佐石齋
口部岸竹部藤橋嶋藤藤斎野村塚柴嵐原島藤内林部田倉井本田達藤部田林部内長谷川嵐木沢澤岡山合畑林沢藤井藤
大賢忠吉和幸利静匡健福隆久誠秀政繁美佐一勇光喜久平敏俊元孝徳長九健一忠千国和紀孝広泰昭
徳一志弘広治章雄司二実敏夫男宏幸彦雄栄徳一夫吾造昇勝武晴武雄久尚夫剛昌郎典里雄男雄雄利次道昭

[illegible]

佐菊大原関梅舟佐佐佐江橋鈴新三木五十五十高紺菅菅小大大外土中海老半長福西鈴芝小川八國中佐佐安中伊五十長谷
藤地竹 口宮田藤藤瀬花本父木城瓶村子風瓶瓶橋野野家川東竹川屋村名澤尾島湯木田林口木分村藤藤田島藤五十嵐
恒 勝清昭芳文文源 安保 英公敏靖宗利 祥謙 倭俊俊 正正友浩 昭 康敏利久 七 好貴
武熟也皎枝志夫也夫夫吉修清信男實孝茂雄平夫二和夫滋喬吉清章雄雄浩光隆二則則郎洪三昭男雄光夫敏雄睦馬志

[illegible]

五十鈴 渡戸 鈴杉 大大 古大 永兼 杜小 近小 小齊 山秦 鈴佐 大荒 細玉 小大 遠五十 飯高 後長 平五十 山田 白菊 神渡 稻高 十二 齋鈴 錦鈴
 十部 野森 木原 竹見 竹峯 子藤 林藤 池田 内木 藤井 竹井 堀川 林森 藤五十 野東 藤川 出長 田中 井地 田部 玉橋 高所 藤島 木錦
 風部 森 雄 四秀 英宏 五 一隆 宗 修孝 信 辰 光秀 邦 正 泰 顯 太善 邦 信 光治 郎 勝郎 雄秀 潔郎
 豐治 雄彦 男努 三隆 友明 昭之 男敏 郎夫 平久 一司 勤夫 正功 也孝 喜一 越亘 茂男 徹人 晃介 二藏 之男 正之 満 郎勝 郎雄 秀潔 郎

Wataru Hokoyama

♩=112

Vocal

1. あ お ぐ ば ん だ い わ れ さ の ぼ こ う
2. か ぐ え き れ ね で あ い と め か め
3. い ぶ ゐ こ す ゐ げ ん に ひ 3 く

5

い ま 水 い め - い - の お ー い - あ さ た に - さ
あ せ と な み - だ - と か う い - は ぐ く み - せ
ち え を だ し - あ - い め げ を - み が い て - せ

9

あ - す す も - う よ し - ん り - も と め て - せ い
あ - か た ん - う よ あ - す を - み つ め て - せ い
あ - つ く ん - う よ め を - か た ち に - せ い

13

し ん か が や け - か い こ う さ め や か に - -
し ん か が や け - か い こ う う つ く し く - -
し ん か が や け - か い こ う た く ま し く - -

会工賛歌（創立百周年記念歌）
 作詞 会工高・100周年記念事業
 実行委員会
 作曲 Wataru Hokyama
 （鋒山 亘）
 一、 あおぐ 磐梯（ばんてい） 我ら（われ）の 母校（はうこう）
 いま黎明（れいめい）の 思い（おもひ） 新た（あらた）に
 さあ進（すす）もうよ 真理（しんり）もとめて
 青春（せいしゅん）かがやけ 会工（かいこう）さわやかに

二、 数えきさぬ 出合いに別れ
あせ ながれ
汗と涙と 友情はよくみ
せうよう
さあ語ろうよ 明日をみつめて
かた あす
青春ががやけ 会工うつくしく
せうしん かいこう
三、 挑むところ 無限に広く
いど ひすい
知恵を出し合い 技をみがいて
ちえ だ あい わざ
さあ創ろうよ 夢をかたちに
つづ め
青春ががやけ 会工たくましく
せうしん かいこう

お世話になりました。

者

➡ 転出先

よろしく願います。

前任校

渡邊	秀雄	校 長	退職	羽二生	幸雄	校 長	勿来工業高等学校
高橋	徳朗	教 諭	退職	山野	敏	教 諭	石川養護学校
稻生	義則	教 諭	退職	湯浅	亜紀子	教 諭	坂下高等学校
平山	賢実	教 諭	退職	加藤	義勝	教 諭	喜多方商業高等学校
小熊	身知	常勤講師	退職	相原	正裕	教 諭	本宮高等学校
岩橋	学	常勤講師	退職（新採用）	伊藤	順子	教 諭	大沼高等学校
嶋田	徳栄	常勤講師	退職（新採用）	村山	彰一	教 諭	郡山北工業高等学校
熊田	俊介	常勤講師	退職	茂木	利幸	教 諭	喜多方工業高等学校
斎藤四志男	期付実習助手	退職		大濱	達明	実習教諭	会津養護学校
長谷川	司	月手当講師	退職	佐藤	文康	実習教諭	猪苗代養護学校
東司	幸弘	時間講師	退職（田島）	山本	義文	実習教諭	喜多方工業高等学校
若菜	靖彦	教 頭	猪苗代養護学校	今川	吉晃	新採用	
沼田	和夫	事務長	県立矢吹病院	益山	心	新採用	
渡辺麻笑子	教 諭	浪江高等学校		櫛田	古瀬	新採用	
芳賀栄理子	教 諭	勿来高等学校		菊田	高史	新採用	
鈴木美枝子	教 諭	喜多方高等学校		平山	賢実	常勤講師	
佐藤	正道	教 諭	郡山北工業高等学校	安部	克彦	常勤講師	
小野	一夫	教 諭	あぶくま養護学校	石本	あゆみ	月手当講師	
大河原	茂	教 諭	郡山北工業高等学校	中村	剛志	時間講師	
数間	一博	教 諭	小高工業高等学校	一重	誠	時間講師	
穴澤	節子	実習教諭	猪苗代養護学校	渡辺	文彦	事務長	内水面水産試験場
高橋	豊	実習教諭	大笹生養護学校	上野	文子	主任主査	会津南部ほ場整備事務所
小林	孝浩	実習講師	埴工業高等学校（新採用）	渡部	秀一	主任用務員	坂下高等学校
高畑	利夫	実習教諭	二本松工業高等学校				
星	賢一	主任主査	会津若松建設事務所				
萬波	幸夫	主任用務員	葵高等学校				

卒業年	前	名	職	役	区	地
K	郎	士	井	長		
C	弘	文	島	長		
A	輝	昌	島	長		
T	夫	昭	綿	長		
L	弘	勝	賀	長		
M	義	孝	藤	長		
E	行	健	中	長		
M	一	邦	木	長		
K	男	武	辺	長		
L	彦	輝	見	長		
T	功		池	長		
T	清	和	木	長		
K	昭	清	保	長		
K	男		盧	長		
K	夫	博	川	長		
K	進	利	藤	長		
K	正	博	田	長		
K	廣	政	木	長		
K	康	重	藤	長		
K	明	利	澤	長		
K	行	政	山	長		
G	光	政	島	長		
C	彦	雅	部	長		
M	俊		上	長		
E	強		村	長		
E	進		岡	長		
E	弘	雅	堀	長		
E	信	一	佐	長		
T	雄	芳	屋	長		
E	夫	哲	服	長		
T	喜	敏	酒	長		
E	夫	伊	中	長		
M	敏	正	安	長		
A	英	忠	笠	長		
M	夫	幹	羽	長		
A	嘉	辰	星	長		
T	勝	力	鈴	長		
K	夫	定	浅	長		
A	雄	正	三	長		
T	春	兵	川	長		
G	樹	春	部	長		
M	司	雄	浅	長		
E	茂	洋	川	長		
A	康	裕	田	長		
A	市	憲	竹	長		
A	勇		山	長		
M	美	勝	藤	長		
K	義	貞	地	長		
T	志	高	田	長		
K	弘	泰	藤	長		
T	男	民	栗	長		
K	滿		藤	長		
T	三	憲	内	長		
M	強		風	長		
T	幸	美	沼	長		
T	夫	俊	部	長		
E	之	藤	川	長		
C	夫	雅	竹	長		
C	一	文	川	長		
E	朗	善	藤	長		
K	治	進	達	長		
T	子	清	安	長		
T	雄	君	真	長		
M	吉	栄	荒	長		
T	也	辰	細	長		
T	尚		黒	長		
C	弘	芳	近	長		
K	彦	善	秋	長		
A	昭		信	長		
A	衛		酒	長		
C	隆	芳	大	長		
K	栄	一	吉	長		
K	男	茂	坂	長		
K	夫	利	手	長		
E	生	春	若	長		
O	史	晴	藤	長		
E	夫	一	西	長		
K	昭	洋	渡	長		
A	夫	源	小	長		
L	充	和	栗	長		
T	正		白	長		
2			伊	長		
5			伊	長		

卒業年	前名	職役	地区	地
2014	清一	常務理事	松山	若
2013	雄一	幹事	松山	若
2012	寛夫	幹事	松山	若
2011	宏男	幹事	松山	若
2010	一之	幹事	松山	若
2009	清男	幹事	松山	若
2008	生男	幹事	松山	若
2007	寿男	幹事	松山	若
2006	利男	幹事	松山	若
2005	行男	幹事	松山	若
2004	美男	幹事	松山	若
2003	一生	幹事	松山	若
2002	雄誠	幹事	松山	若
2001	修夫	幹事	松山	若
2000	久寛	幹事	松山	若
1999	夫典	幹事	松山	若
1998	亨哉	幹事	松山	若
1997	進男	幹事	松山	若
1996	清雄	幹事	松山	若
1995	彦二	幹事	松山	若
1994	治勝	幹事	松山	若
1993	祐武	幹事	松山	若
1992	明之	幹事	松山	若
1991	実男	幹事	松山	若
1990	充一	幹事	松山	若
1989	利夫	幹事	松山	若
1988	實朗	幹事	松山	若
1987	隆之	幹事	松山	若
1986	傑之	幹事	松山	若
1985	威裕	幹事	松山	若
1984	寛一	幹事	松山	若
1983	男男	幹事	松山	若
1982	和雄	幹事	松山	若
1981	一助	幹事	松山	若
1980	仁夫	幹事	松山	若
1979	天瓜	幹事	松山	若
1978	穗生	幹事	松山	若
1977	雄生	幹事	松山	若
1976	雄生	幹事	松山	若
1975	夫守	幹事	松山	若
1974	満彦	幹事	松山	若
1973	山部	幹事	松山	若
1972	羽野	幹事	松山	若
1971	野	幹事	松山	若
1970	山部	幹事	松山	若
1969	野	幹事	松山	若
1968	山部	幹事	松山	若
1967	野	幹事	松山	若
1966	山部	幹事	松山	若
1965	野	幹事	松山	若
1964	山部	幹事	松山	若
1963	野	幹事	松山	若
1962	山部	幹事	松山	若
1961	野	幹事	松山	若
1960	山部	幹事	松山	若
1959	野	幹事	松山	若
1958	山部	幹事	松山	若
1957	野	幹事	松山	若
1956	山部	幹事	松山	若
1955	野	幹事	松山	若
1954	山部	幹事	松山	若
1953	野	幹事	松山	若
1952	山部	幹事	松山	若
1951	野	幹事	松山	若
1950	山部	幹事	松山	若
1949	野	幹事	松山	若
1948	山部	幹事	松山	若
1947	野	幹事	松山	若
1946	山部	幹事	松山	若
1945	野	幹事	松山	若
1944	山部	幹事	松山	若
1943	野	幹事	松山	若
1942	山部	幹事	松山	若
1941	野	幹事	松山	若
1940	山部	幹事	松山	若
1939	野	幹事	松山	若
1938	山部	幹事	松山	若
1937	野	幹事	松山	若
1936	山部	幹事	松山	若
1935	野	幹事	松山	若
1934	山部	幹事	松山	若
1933	野	幹事	松山	若
1932	山部	幹事	松山	若
1931	野	幹事	松山	若
1930	山部	幹事	松山	若
1929	野	幹事	松山	若
1928	山部	幹事	松山	若
1927	野	幹事	松山	若
1926	山部	幹事	松山	若
1925	野	幹事	松山	若
1924	山部	幹事	松山	若
1923	野	幹事	松山	若
1922	山部	幹事	松山	若
1921	野	幹事	松山	若
1920	山部	幹事	松山	若
1919	野	幹事	松山	若
1918	山部	幹事	松山	

[illegible]

当編集委員は、暑熱に
へトへトしながら、
何とかが発行することが
出来ました。ご多忙の
中原稿依頼にご協力い
ただいた同窓生の皆様、
この紙面を借りまして
心より御礼申し上げます。
誠にありがとうございます。
次年もより良い内容の紙面をと
努力してまいります。

会報が届く頃には、
早稲米の「ひとめぼれ」
の刈り取りが始まるで
しょう。北に飯豊・吾
妻・磐梯を、南に大
戸・小野・博士の各山
を望むこの盆地、後世
に残したい大切な風景
です。

会工同窓会役員

■本部

顧問 吉田一榮 20 K 会津若松市
会長 手代木利夫 28 A 会津若松市
副会長 若狭春生 38 K 会津若松市

幹事長 荒井士郎 34 K 会津若松市
幹事長 山岸清 38 A 会津若松市
副幹事長 藤田晴史 40 E 会津若松市

幹事 荒川富士雄 43 M 会津若松市
木村洋一 50 K 会津若松市
江花光泰 31 L 会津若松市

小林憲一 31 E 会津若松市
片平寛 32 M 会津若松市
佐藤松夫 33 K 会津若松市

根本一雄 36 E 会津若松市
梨子本傑 41 K 会津若松市
長谷川利彦 41 K 会津若松市

佐藤幹夫 41 G 会津若松市
佐藤義之 42 M 会津若松市
石田功 43 G 会津若松市

曾根智子 46 L 会津若松市
菊地寿雄 48 D 会津若松市
坂内美佐子 50 C 会津若松市

菅原正晴 51 A 会津若松市
伊東幸治 53 C 会津若松市
佐藤満 56 A 会津若松市

渡部恵子 56 D 会津若松市
五十嵐昭夫 35 A 会津若松市
村山幹夫 41 M 会津若松市

石川善一 39 E 会津若松市
浅田誠 43 E 会津若松市
藤沼嘉典 32 T 会津若松市

神田信之 31 M 会津若松市
猪俣勇一 43 G 会津若松市
長谷川与一 40 E 会津若松市

小島淳一 41 M 会津若松市
佐野常雄 31 E 会津若松市
荒井誠一 49 A 会津若松市

河野政昭 43 A 会津若松市
鈴木安太郎 31 E 会津若松市
菊地登貴雄 52 M 会津若松市

齋藤四志男 34 K 会津若松市
風間眞一 45 L 会津若松市
番場幸雄 49 C 会津若松市

古川義市 48 K 会津若松市
山口栄喜 46 E 会津若松市

平成22年9月現在

会計

監事

参与

事務局

五十嵐慧夫 26 M 茨城県白立市
田部一徳 48 C 磐梯町
関井信平 46 D 会津若松市
岩淵浩之 54 L 会津若松市
中丸淳 55 K 会津若松市
坂内茂男 28 E 会津若松市
関場一宏 33 K 会津若松市
星芳雄 36 E 会津若松市
大竹文夫 31 C 京都府精華町
金田寛 21 M 郡山市
星武 27 E 福島市
五十嵐夫 43 A 会津若松市
荒井久 18 T 郡山市
菅沼淳一 36 E 猪苗代町
鈴木仁 21 M 西会津町
菅沼章生 29 C 湯川村
横山嘉夫 26 M 会津若松市
西村一夫 31 E 会津若松市
栗城和夫 41 M 会津若松市
渡部洋子 32 K 会津若松市
白井充 42 L 会津若松市
中丸淳 55 K 会津若松市
加藤義勝 56 L 会津若松市
真田郁夫 57 E 会津若松市
田中哲平 4 In 会津若松市
渡邊修 44 D 会津若松市
長崎敏秀 44 G 会津若松市
玉川誠 47 M 会津若松市
岩淵浩之 54 L 会津若松市
大濱達明 55 K 会津若松市
鶴巢幸江 58 M 会津若松市
星義一 41 A 会津若松市
安部克彦 46 M 会津若松市

襟章にあらわされた各科の略号

染織科・繊維工業科	T	TEXTILE	(英)
漆工科・工芸科	L	LACQUER	(英)
インテリア科	I	INTERIOR	(英)
窯業科・セラミック科	K	KERAMIK	(独)
セラミック科 (H5.4より)	F	FINE CERAMIC	(英)
応用化学科・工業化学科	C	CHEMISTRY	(英)
化学工学科	G	GADGET	(英)
機械科	M	MACHINE	(英)
精密機械科	F	FINENES	(英)
電気科	E	ELECTRICITY	(英)
電子科	D	DENSHI	(日)
建築科	A	ARCHITECTURE	(英)
建築インテリア科	K	KENTIKU INTERIOR	(日)
電気工事科	S	SANGYO	(日)
溶接科	W	WELDING	(英)
デザイン科	デ	デザイン	(日)
情報技術科	J	JYOHOGIYUTU	(日)
本郷分校	K	KERAMIK	(独)

会員数一覧表

※会員数の中には、物故者数も含まれます。(平成22年3月現在)

科名	会 員 数
染織科・繊維工業科	2,468
漆工科・工芸科 インテリア科	2,634
窯業科・セラミック科	2,828
応用化学科・工業化学科	2,121
化学工学科	2,127
機械科	4,532
精密機械科	606
電気科	2,544
電子科	1,568
情報技術科	738
建築科 建築インテリア科	2,517
専攻科デザイン科	140
産業科	215
併設中学校	623
本郷分校	633
旧職員	1,031
総 数	27,325

平成20年4月より

建築インテリア科	A	ARCHITECTURE INTERIOR	(英)
セラミック化学科	C	CERAMIC CHEMISTRY	(英)
機械科	M	MACHINE	(英)
電気科	E	ELECTRICITY	(英)
情報技術科	I	INFORMATION TECHNOLOGY	(英)